

医薬品の適正使用検討特別委員会

(令和4年度)

医薬品の適正使用検討特別委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 医薬品の適正使用検討特別委員会

委員長 松尾 裕彰

I. はじめに

1 背景

「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）について」（平成30年5月29日付け医政安発0529第1号および薬生安発0529第1号厚生労働省医政局総務課医療安全推進室長および同省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長通知）によると、服用する薬剤数が多いことに関連して薬物有害事象のリスク増加、服用過誤、服薬アドヒアランスの低下などの問題につながる状態を「ポリファーマシー」と呼ぶ（ただし、具体的に何剤からポリファーマシーであるかという厳密な定義はない）。とされている。

ポリファーマシーは近年、医療安全および医療経済の観点から問題視されており、この解決に向けた様々な取り組みも活発に行われている。

2 これまでの取り組み

当委員会では、平成29年度からポリファーマシーをテーマとした調査・検討を行ってきた。

(1) 平成29年度の結果の概要

医療・介護関係職種、患者（来局者）および県内市町地域包括ケア担当課に対するアンケート調査を実施した。

「薬の種類が「多い」ことで何か問題が生じていると感じることはあるか」という趣旨の問いに対して、次の結果が得られた（図1）。

- ・患者（薬局来局者）においては61%が「ある」と回答
- ・訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所および地域包括支援センターではそれぞれ90%、87%および94%が「ある」と回答
- ・診療所（医科）、診療所（歯科）および薬局ではそれぞれ60%、58%および78%が「ある」と回答

このことから、患者や医療・介護職種のいずれも

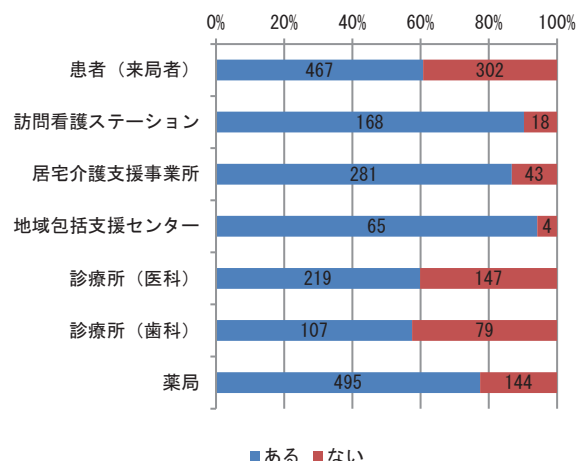


図1 薬の種類が多いことで問題が生じていると感じるか否かに関する回答（平成29年度調査より）

問題があると感じており、特に介護職種での割合が約9割と高い一方、薬局では、約8割と差があり、介護職種と薬局の連携への取組が必要と考えられた。

この情報共有・連携においてツールを活用することに対する意見を調査したところ、全ての職種において6割以上から「ツールを使ってみよう」との回答が得られた（図2）。

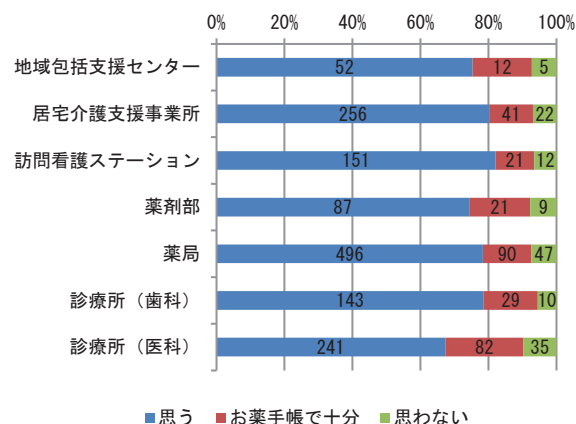


図2 多剤服用に関する問題を解決するためのツールを使ってみようと思うかどうかに関する回答（平成29年度調査より）

また、この結果からツールとしては、医療・介護現場における負担が増大しないものが望まれていることが推測された。

(2) 平成30年度の結果の概要

平成29年度の調査結果を踏まえ、ポリファーマシー改善に向けた具体的な取り組みについて検討し、職種間で利用する情報共有ツールを作成することとした。

(3) 令和元年度の結果の概要

ツール試行を一部地域の有料老人ホーム及びサービス付き高齢者住宅を対象として実施したが、サービス受給者の薬の使用に関する問題が発生した際に相談できる薬局が確保されているケースがほとんどであり、ツールの活用事例を得ることができなかった。

この結果を踏まえ、サービス受給者が、施設ではなく、各居宅でサービスを利用する場合、サービス需給者毎に薬局が異なることが想定される。このため、ツール活用の可能性について、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターおよび訪問看護ステーションを対象に、追加調査を行った。

(ア) 薬のことで困ることがあるかどうかに関する回答(図3)

・薬のことで困ることが「ある」と回答した割合は、居宅介護支援事業所で79%、訪問看護ステーションで78%、地域包括支援センターで93%

回答内容の比率は、平成29年度の調査結果(図1)と概ね同様であった。

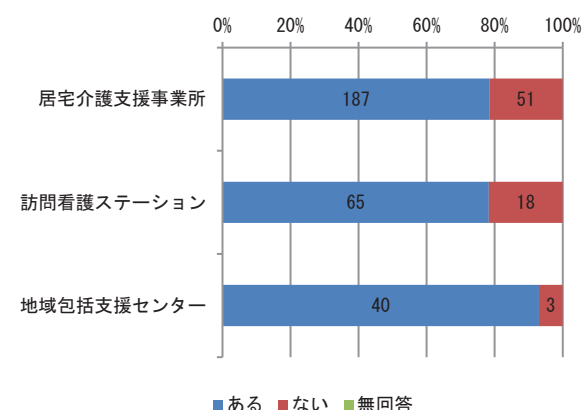


図3 薬のことで困ることがあるかどうかに関する回答状況

(イ) ツール「おくすり相談シート」の活用機会の有無について

さらに、(ア)において「ある」と回答した場合で、情報共有ツールである「おくすり相談シート」

を活用する機会があるか否かについての回答は、図4のとおり。

・当該ツールを活用する機会があると考える割合は居宅介護支援事業所において73%、訪問看護ステーションにおいて68%、地域包括支援センターにおいて85%であった。

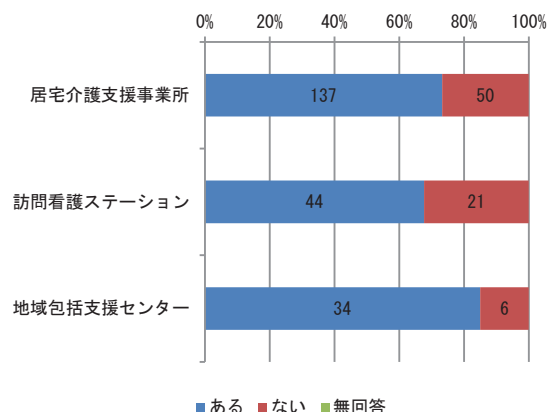


図4 「おくすり相談シート」活用機会の有無に関する回答状況

また、活用する機会があると考える場合、どのような状況におかれたサービス受給者に対して活用することを想定しているかについては、図5のとおり。

多くの施設が「薬局による訪問のない居宅サービス受給者」における活用を想定していた。

特に、居宅介護支援事業所において、活用機会が多い可能性が示唆された。

(4) 令和2年度の結果の概要

令和元年度の結果を踏まえ、ツールの活用が期待できる、居宅介護支援事業所において、ツールを試行することとした。

ツールの試行先としては、薬局による在宅医療の普及度合い及び地域薬剤師会による関係団体等との調整の結果、東広島地域(東広島市の一部地域を指す。当該地域における居宅介護支援事業所は43件、薬局は88件)とした。

また、ツール試行に先立ち、より活用が進むように、ツールを図6のとおりとし、さらに、東広島地域の実情に応じて、図7のとおり改定した。

令和3年3月からツールの試行を実施し、2件の活用事例が確認された。

2件の事例は、いずれも介護職種から薬局に声がかかったものであり、薬局から医療機関に報告をし、報告内容を元に、医師の指示により薬局による在宅医療参画につながった事例であった。

回答施設数

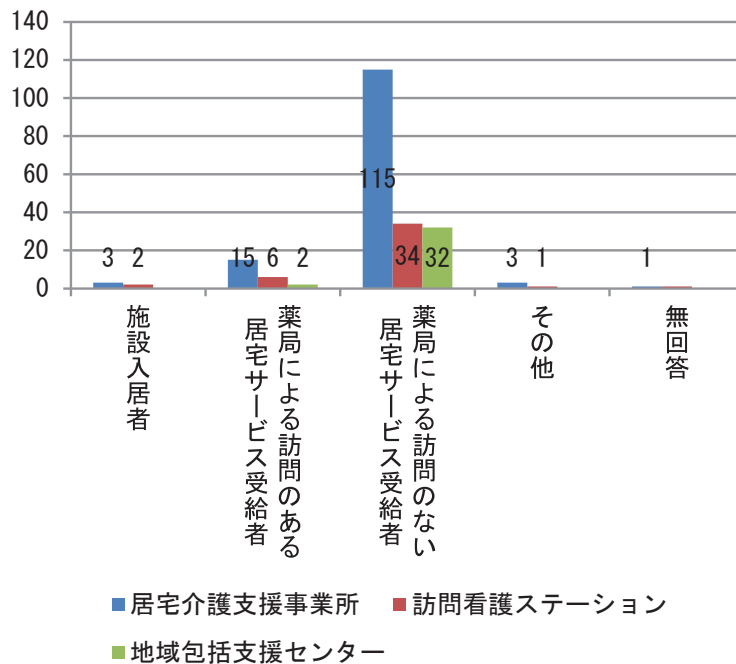


図5 「おくすり相談シート」を活用する機会があると考えられる場合、その活用対象となるサービス受給者のおかれた状況

(ア) 事例1

契機	居宅介護支援事業所のケアマネジャーが担当サービス需給者について、自身の利用している薬について、医師や薬剤師等に相談できず、困っていることを探知し、ツールを活用して薬局に相談
対応結果	薬局によるさらなる聞き取りが行われ、聞き取り結果をもとに医療機関に連絡するとともに、薬局による在宅医療サービスの提供を提案し、薬局による在宅医療サービス開始
連携状況	・ツール送付元：居宅介護支援事業所 ・以前より連携の実績あり

(5) 令和3年度の結果の概要

令和2年度の実績をうけ、引き続き東広島地域でツールの試行を行った。さらなる活用事例収集のため、各関係団体に対する周知依頼や活用依頼、各会誌への情報の掲載、関係団体の主催する研修会での周知活動などを行った。研修会では、「初めて薬局と連携する際のきっかけとして利用したい」など前向きな意見が確認できたが、新たな活用実績は確認することはできなかった。

(イ) 事例2

契機	訪問看護ステーションが、サービス受給者の薬の管理について薬局に相談の電話。薬局から訪問看護ステーションに対し、相談内容の確実な把握のためにツール活用提案し、訪問看護ステーションから薬局に対してツールを用いて相談実施
対応結果	薬局により状況確認の後、医療機関に連絡。薬局による在宅医療サービス開始
連携状況	・ツール送付元：訪問看護ステーション ・今回の取り組みにより連携開始

おくすり相談シート

2枚目で地図送付します

薬局御担当者様

いつも大変お世話になっております。お薬のことで困っています。

発信日

事業所↓薬局への連絡に利用 (事業所において記入)	発信元	事業所名	名刺の貼付でも可
		担当者名	
		連絡先 (TEL)	
	返信先	F A X 番号	
	ふりがな		(生年月日)
	利用者氏名		年 月 日生
	要確認! →	<input type="checkbox"/> 関係機関と相談内容を共有することについて、利用者様の同意取得済み <input type="checkbox"/> 医療機関（医師等）には内緒にしておいてほしい希望あり <small>※必要に応じて薬局から医療機関へ情報提供しますが、医師が患者へ説明するときに重要な情報となります</small>	
		<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	年齢 歳
	困っている内容	<input type="checkbox"/> 薬の種類が多すぎて服用が難しい（概ね6種類以上） <input type="checkbox"/> 薬が残っている（概ね10日分以上） <input type="checkbox"/> 薬をうまく飲めない（むせる、ひっかかる、うまく貼れないなど） <input type="checkbox"/> 何の薬か分からないものがある <input type="checkbox"/> 一般用医薬品（処方箋なしに購入できる薬）・サプリメントを飲んでいる <input type="checkbox"/> 複数の薬局から薬をもらっている <input type="checkbox"/> その他 { } <small>記載例：ふらつきがある／ぼーっとしている／等</small>	
	利用している医療機関名（不明の場合「不明」と記入） <small>（複数ある場合できる限り記入してください）</small>	他に利用している薬局名（不明の場合「不明」と記入） <small>（複数ある場合できる限り記入してください）</small>	

【受け取った薬局様へ】
 自薬局のみでの対応が困難だと感じた場合は他薬局に相談し対応してください。

受け取った薬局で記入 事業所に返信	薬局の対応状況整理表（薬局において記入）	
	1 薬局での対応	<input type="checkbox"/> 自薬局のみで対応 <input type="checkbox"/> その他 { } <input type="checkbox"/> 他の薬局と相談（薬局名→)
	2 対応の具体的内容	<input type="checkbox"/> 医師に処方提案 <input type="checkbox"/> その他 { } <input type="checkbox"/> 医師に疑義照会
	3 対応結果	<input type="checkbox"/> 減薬につながった <input type="checkbox"/> その他 { } <input type="checkbox"/> 経過観察

この取組に関する問い合わせ先：地域保健対策協議会事務局【広島県健康福祉局薬務課（082-513-3222）】

図6 ツール「おくすり相談シート」改定版（令2年度版）

おくすり相談シート		東広島地域		
薬局御担当者様			発信日	
いつも大変お世話になっております。お薬のことでご相談があります。				
事業所↓薬局への連絡に利用 (事業所において記入)	発信元	事業所名		
		担当者名		
		連絡先 (TEL)		
		FAX番号		
	返信先			
	ふりがな			
	利用者名 (苗字だけで可)	様	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 年齢 歳	
	要確認! →		<input type="checkbox"/> 関係機関と相談内容を共有することについて、利用者様の同意取得済み	
	特記事項記入欄→		(例) 医療機関 (医師等) には内緒にしておいてほしい希望あり ※必要に応じて薬局から医療機関へ情報提供しますが、医師が患者へ説明するときに重要な情報となります	
	困っている内容	<input type="checkbox"/> 薬の種類が多すぎて服用が難しい (概ね6種類以上) <input type="checkbox"/> 薬が残っている (概ね10日分以上) <input type="checkbox"/> 薬をうまく飲めない (むせる、ひっかかる、うまく貼れないなど) <input type="checkbox"/> 何の薬か分からないものがある <input type="checkbox"/> 一般用医薬品 (処方箋なしに購入できる薬)・サプリメントを飲んでいる <input type="checkbox"/> 複数の薬局から薬をもらっている <input type="checkbox"/> その他 { <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">記載例: ふらつきがある/ぼーっとしている/等</div>		
利用している医療機関名 (不明の場合「不明」と記入) (複数ある場合できる限り記入してください)	他に利用している薬局名 (不明の場合「不明」と記入) (複数ある場合できる限り記入してください)			
【受け取った薬局様へ】 個人が完全に特定できないものとなっています。必ず電話等にて確認の折り返しをお願いします。				
受け取った薬局で記入	薬局の対応状況整理表 (薬局において記入)			
	【対応結果】 ●月○日に返信 <input type="checkbox"/> 医療機関と情報共有し減薬した <input type="checkbox"/> 経過観察 <input type="checkbox"/> 在宅医療を提案 <input type="checkbox"/> その他 ()			
この取組に関する問い合わせ先: 地域保健対策協議会事務局 【広島県健康福祉局薬務課 (082-513-3222)】				

図7 ツール「おくすり相談シート」改定版 (令和2年度東広島地域版)

II. 令和4年度の調査内容およびその結果

1 ポリファーマシーに対する意識調査

「ポリファーマシー」に関する調査研究事業は6年目を迎え、事業当初と比較し、「ポリファーマシー」という単語そのものの浸透や、関係職種「ポリファーマシー」への意識変化についてを調査するため、アンケート調査を実施した。また、令和2年度以降のツールの試行においては、「薬局に相談するのは敷居が高い」という意見が出され、薬局と多職種との連携に課題が示唆されたことから、事業当初の平成29年度に実施したアンケート調査内容に加え、薬局に求められる機能や知られていない機能を明らかにする設問を追加したアンケート調査を実施することとした。

(1) アンケート調査の対象、期間、調査実施方法
対象は表1のとおり。広島県内の医療・介護関係職種及び患者（薬局来局者）を対象に、全数もしくはランダム抽出とし、ランダム抽出の場合は、平成29年度の対象数と同数とした。

実施期間は、令和4年12月23日（金）から令和5年1月13日（金）としたが、インターネットでの回答のみ令和5年1月31日（火）まで延長した。

アンケート実施方法は、郵送で各対象施設へ依頼文を送付し、インターネットでの回答又は紙面で回答とした。患者アンケートについては、アンケート送付薬局に協力を依頼し、薬局から来局者に対してアンケート回答の依頼を実施した。

(2) アンケート調査票

別紙のアンケート調査票のとおり。主な調査項目は次のとおり。

- ①回答者の区分、基礎情報
- ②「ポリファーマシー」への意識、「ポリファーマシー」に関する影響
- ③「ポリファーマシー」に関する相談先、相談先へ期待する機能
- ④情報共有ツールの必要性
- ⑤薬局・薬剤師と関係職種との連携状況と今後の期待

2 調査結果（平成29年度との比較）

(1) アンケート回収率

アンケート回収率は表2-1、表2-2のとおり。

表2-1 令和4年度アンケート回収率

区分	送付数	回収数	回収率
診療所（医科）	1,200	332	28%
診療所（歯科）	850	331	39%
居宅介護支援事業所	540	248	46%
地域包括支援センター	122	73	60%
訪問看護ステーション	362	144	40%
薬局	1,453	256	18%
医療機関薬剤部	202	86	43%
患者	—	173	—

表2-2 平成29年度アンケート回収率

区分	送付数	回収数	回収率
診療所（医科）	1,200	371	31%
診療所（歯科）	850	191	22%
居宅介護支援事業所	540	324	60%
地域包括支援センター	119	69	58%
訪問看護ステーション	272	188	69%
薬局	1,513	641	42%
医療機関薬剤部	191	120	63%
患者（来局者）	—	867	—

表1 アンケート調査対象区分及び施設数

区分	対象数	対象
診療所（医科）	1,200	広島県医師会員のうち、平成29年度に実施したアンケート対象者及びランダムに選定した対象者
診療所（歯科）	850	広島県歯科医師会員のうち、ランダムに選定した対象者
居宅介護支援事業所	540	広島県ホームページに掲載の事業者のうち、平成29年度に実施したアンケート対象者及びランダムに選定した対象者
地域包括支援センター	122	広島県ホームページに掲載の事業者すべて
訪問看護ステーション	362	広島県ホームページに掲載の事業者すべて
薬局	1,453	広島県薬剤師会員が所属する保険薬局
医療機関薬剤部	202	広島県病院薬剤師会員の所属する病院薬剤師
患者	—	アンケート対象薬局に対局した患者のうち、協力者

(2) 回答施設の概要

回答施設の二次医療圏ごとの内訳は図1-1、図1-2のとおり。また、診療所（医科）の診療科の状況については図2のとおりであり、医療機関薬剤部に対するアンケートから得られた病床数などに関する状況は図3-1、図3-2のとおり。

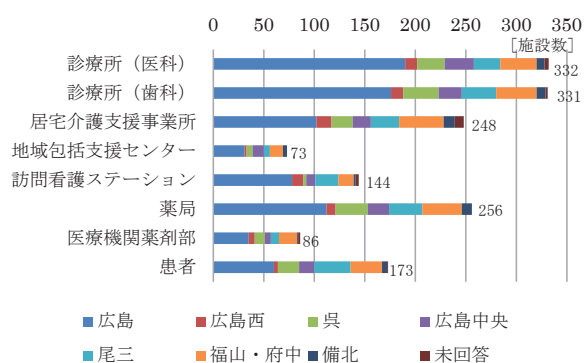


図1-1 令和4年度回答施設数（二次医療圏別）

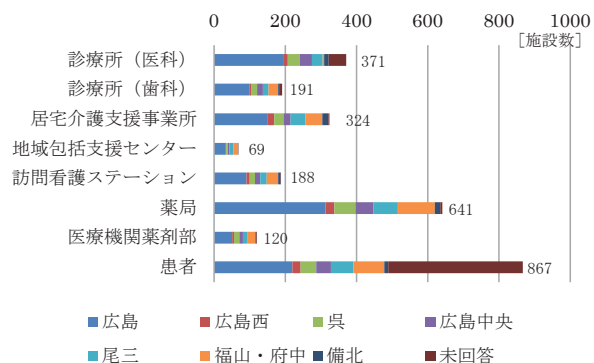


図1-2 平成29年度回答施設数（二次医療圏別）

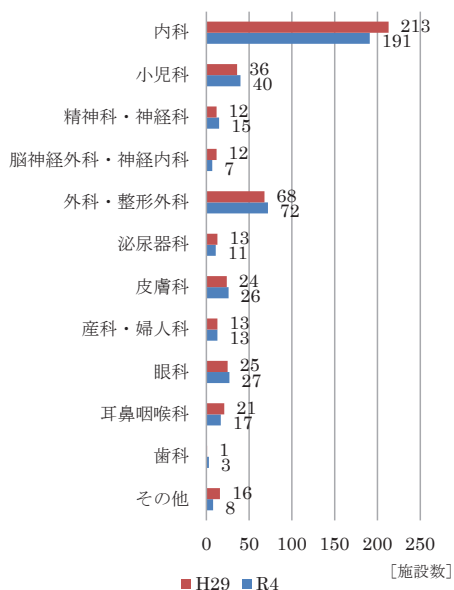


図2 診療所（医科）の診療科

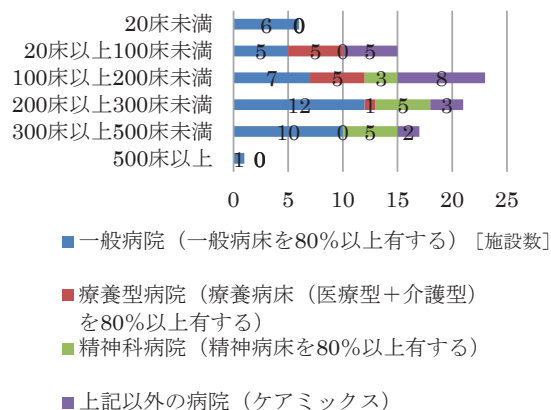


図3-1 令和4年度医療機関薬剤部における病床の状況

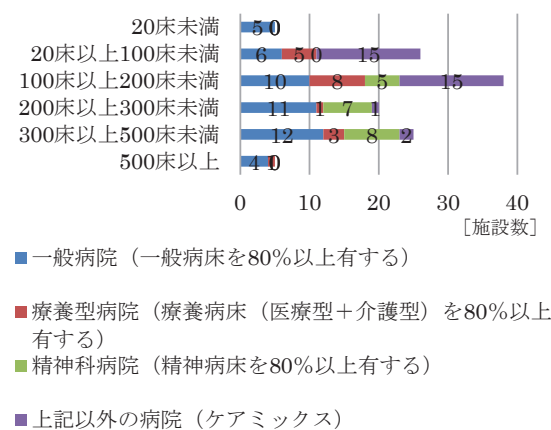


図3-2 平成29年度医療機関薬剤部における病床の状況

(3) 回答患者の概要

患者アンケートについては、患者の概要を確認する設問を設定しており、その結果は、年齢と性別は図4-1及び図4-2、お薬手帳の所持については図5、かかりつけ薬剤師・薬局については図6、受診診療科については図7、介護サービス受給については図8である。

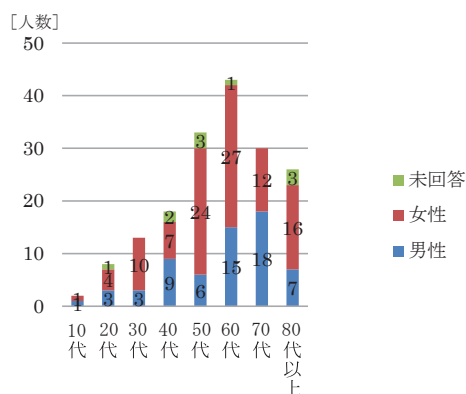


図4-1 令和4年度年度回答患者性別・年齢

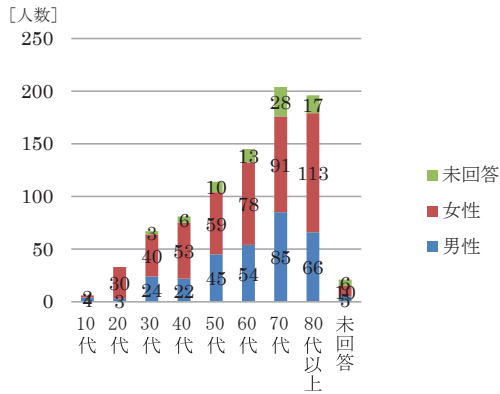


図4-2 平成29年度年度回答患者性別・年齢

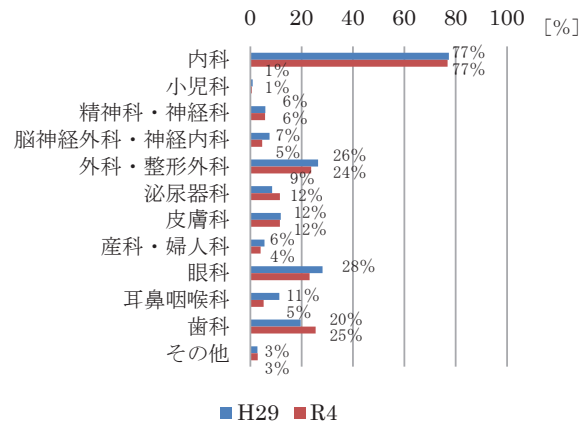


図7 回答患者の受診診療科（複数選択可）

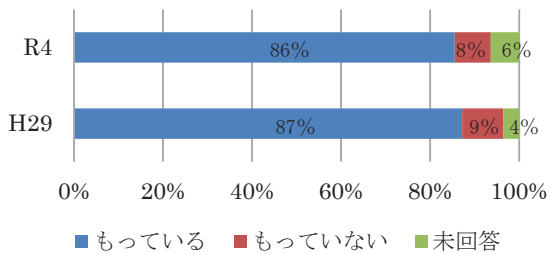


図5 回答患者のお薬手帳所持率

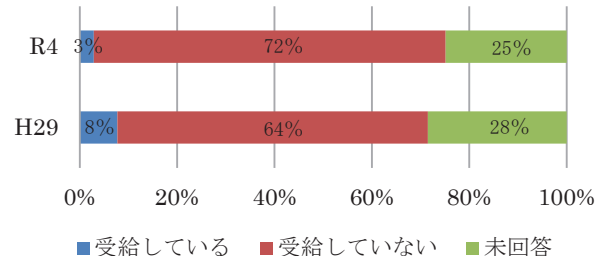


図8 回答患者の介護サービス受給状況

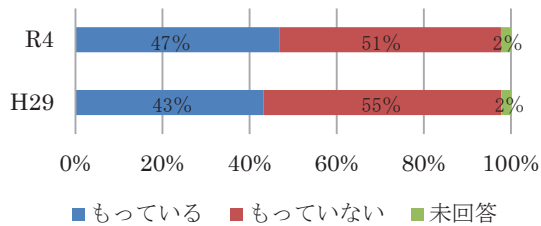


図6 回答患者のかかりつけ薬剤師・薬局所持率

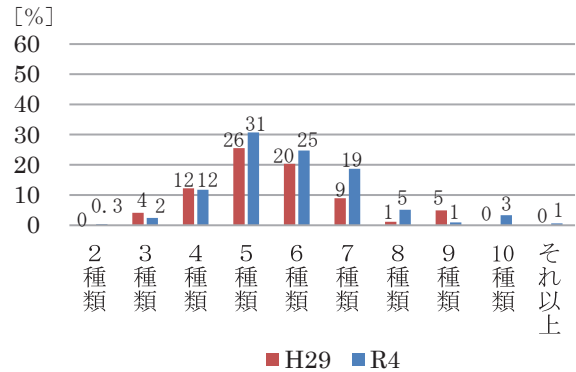


図9 診療所（医科）の回答

(4) 医薬品が何種類以上から「多い」と感じるかについて

患者の服用，使用している医薬品について，何種類以上を「多い」と捉えるかについては図9から図16のとおり。診療所（医科・歯科），居宅介護支援事業所，地域包括支援センター，訪問看護ステーションでは「5種類」と回答する施設が最も多いことに変化はなかった。薬局や医療機関薬剤部では「6種類」の回答が最も多く，診療所（医科）や地域包括支援センター，訪問看護ステーションでも「6種類」を挙げる施設は増えていた。また，患者の多いと感じる種類は「5種類」の回答が多かった。

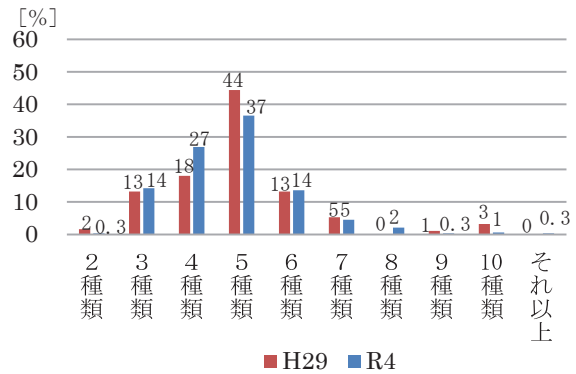


図10 診療所（歯科）の回答

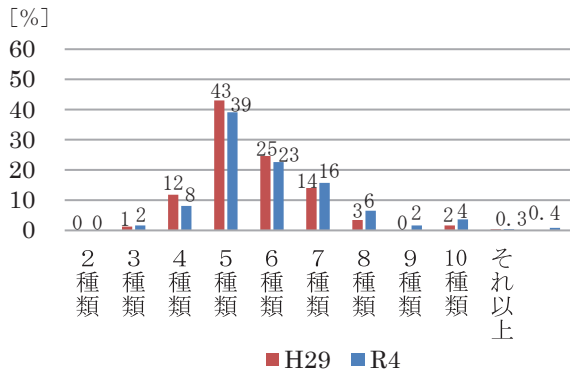


図 11 居宅介護支援事業所の回答

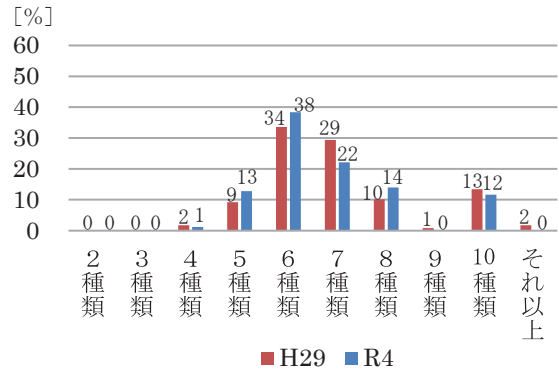


図 15 医療機関薬剤部の回答

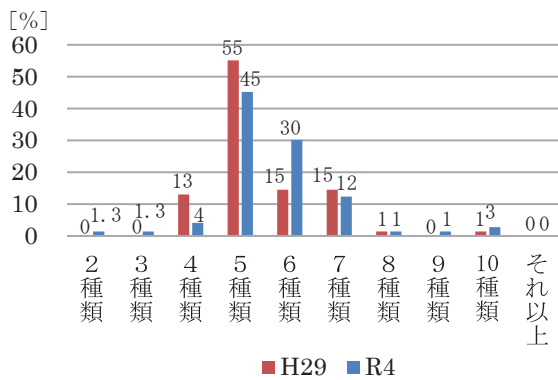


図 12 地域包括支援センターの回答

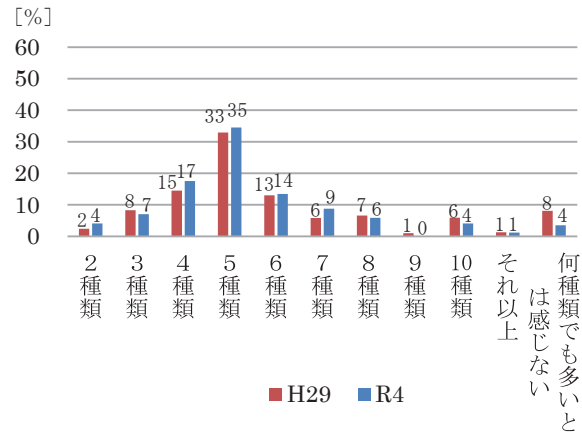


図 16 患者の回答

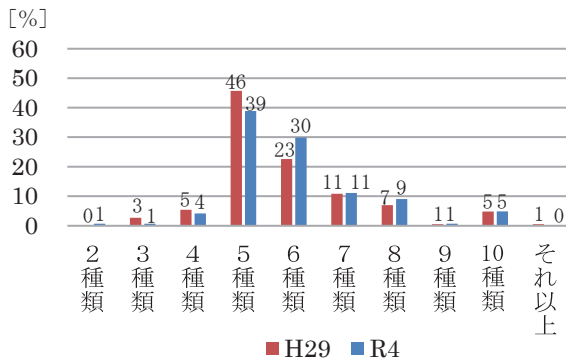


図 13 訪問看護ステーションの回答

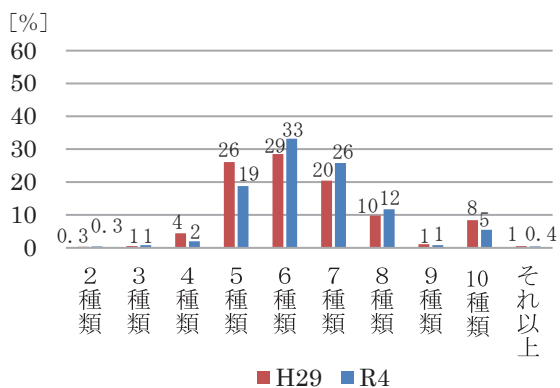


図 14 薬局の回答

(5) 種類が「多い」状態のなかで、何か問題点が生じていると感じているかどうかについて

(2) で医薬品の種類が「多い」と感じた際に、何か問題が生じていると感じるかどうかについての回答は図 17-1、図 17-2 のとおりである。平成 29 年度と比較して、令和 4 年度の回答では、診療所（医科）で「問題がある」という回答が増加した一方、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、訪問看護ステーションでは「問題がある」という回答が減少した。

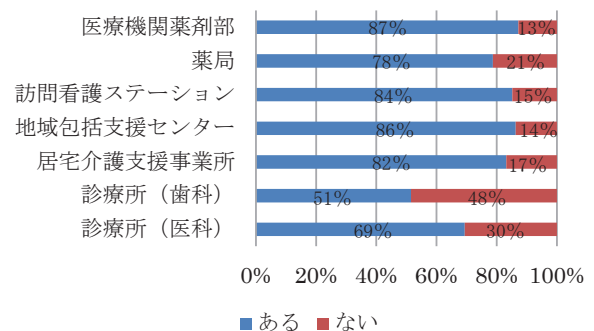


図 17-1 問題が生じているか否かの回答（令和 4 年度）

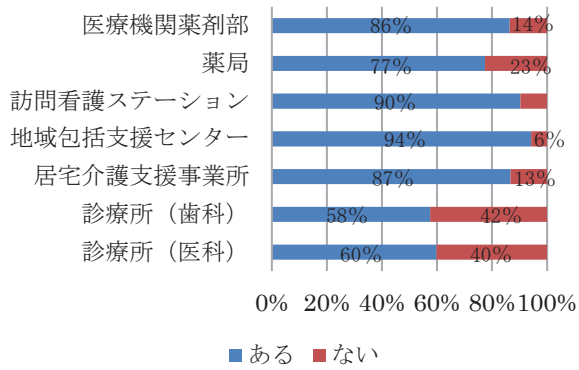


図 17-2 問題が生じているか否かの回答 (平成 29 年度)

また、「問題がある」と回答した施設での、生じている問題の具体的な内容の回答は図 18-1、図 18-2 のとおり。どちらも「アドヒアランスの低下」について各職種から高い割合で回答があったことに加え、令和 4 年度では「有害事象の発生」が居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、薬局において回答が増加していた。

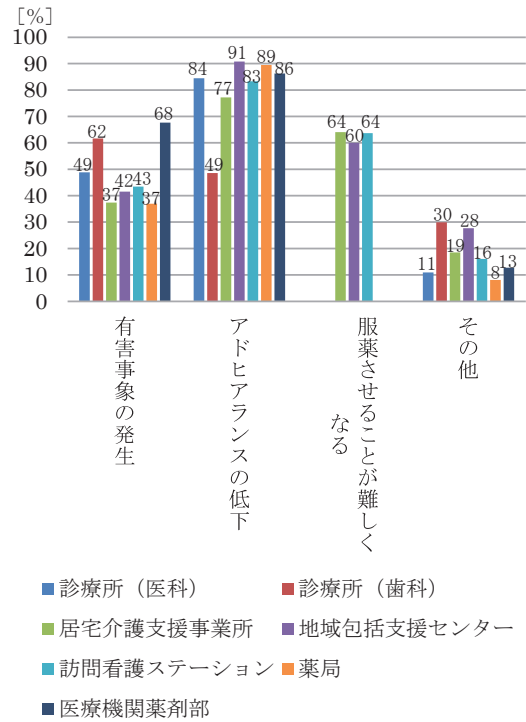


図 18-2 具体的な問題 (平成 29 年度)

※「服薬させることが難しくなる」は看護・介護職のみ。

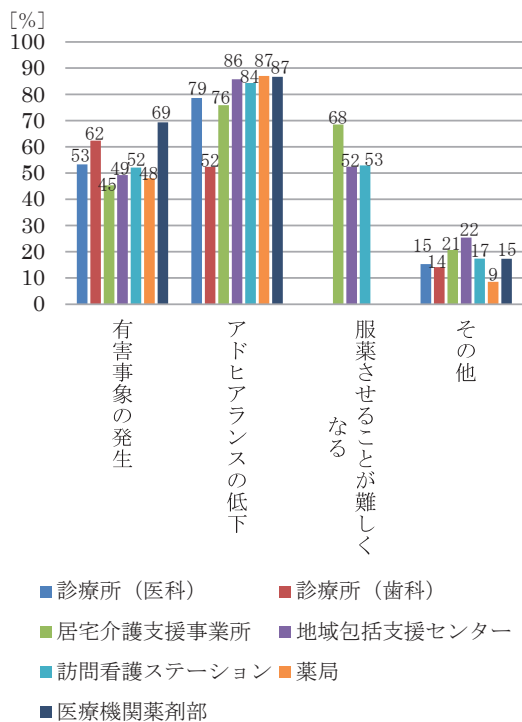


図 18-1 具体的な問題 (令和 4 年度)

また、具体的な問題の中で「その他」を選択した施設からは、「重複投与」や「薬の飲み忘れや飲み間違い」などといった意見が多く挙げられた。

加えて、患者アンケートでの設問である「薬が多い場合に困ることは何か」との回答は図 19 のとおりである。患者側の意識としては「薬の種類が多くなっても困ることはない」という回答が最も多かった。

患者アンケートにおける「その他」の内容では、「飲み合わせ」や「副作用」などが挙げられた。

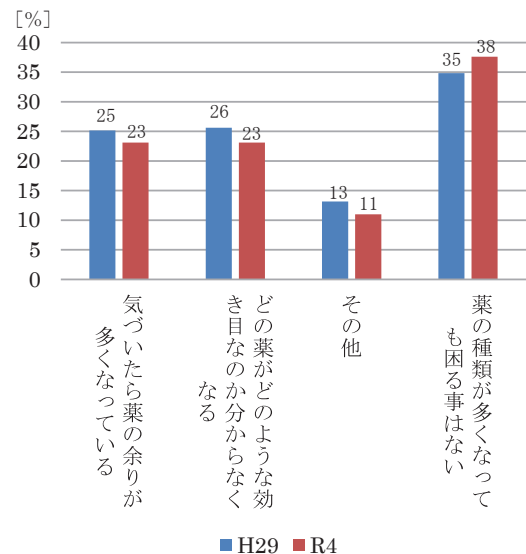


図 19 患者にとって薬が多い場合に困ること

(6) 医療機関薬剤部における処方整理と情報共有
 医療機関薬剤部においては、入院患者の持参薬を確認し、重複などを確認し減薬などを行う処方整理を実施する場合があります。この処方整理の実施状況は図20のとおりであり、処方整理を実施した場合の整理に関する情報の共有方法は図21である。平成29年度と令和4年度における処方整理の実施割合に差はなかったが、情報共有の手段として、「お薬手帳以外の紙媒体に情報を印字し、患者に交付する」の回答が令和4年度では減少しており、その他の項目については変化が見られなかった。また、「その他」としては、「薬剤管理サマリー」の利用が多く挙げられた。

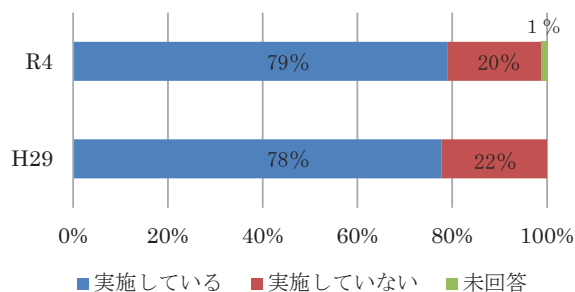


図20 医療機関薬剤部における処方整理の実施

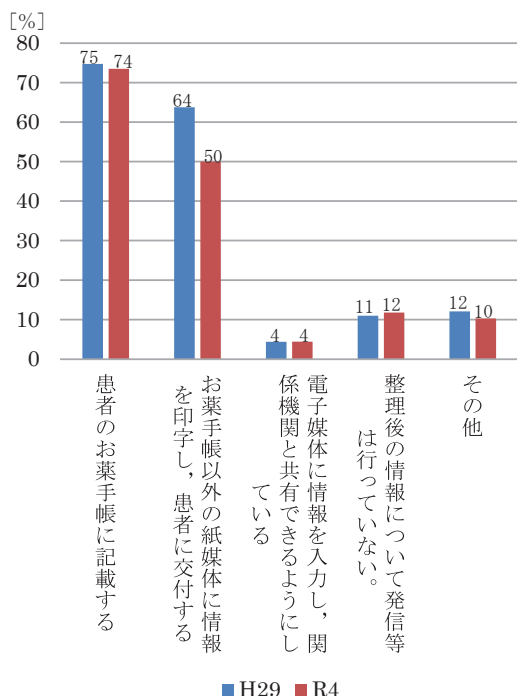


図21 処方整理後の情報共有方法

(7) 医薬品の種類が「多い」ことで困った際の相談先について
 各職種について、医薬品の種類が多いことに関する

相談先を、第3順位まで選択し回答を得た。相談先としての選択を比較するため、平成29年度と同様に、回答総数及び選択された順位に応じたポイントを掛け合わせ、合計ポイントを算出した(1位:5ポイント 2位:3ポイント 3位:1ポイント 例えば、ある職種・施設が相談先の順位として1位に選ばれた回答割合が60%、2位に選ばれた回答割合が20%、3位に選ばれた回答割合が10%であり、この職種・施設の回答総数が300であった場合、ポイントは $300 \times 0.6 \times 5 + 300 \times 0.2 \times 3 + 300 \times 0.1 \times 1 = 900 + 180 + 30 = 1100$ となる)。各回答施設の総ポイント数に占める各相談先のポイント割合を図22~図28に示した。

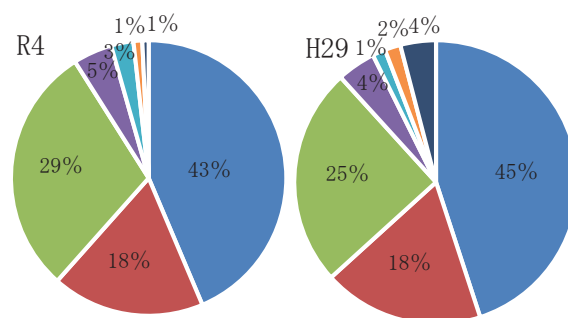


図22 診療所(内科)の相談先

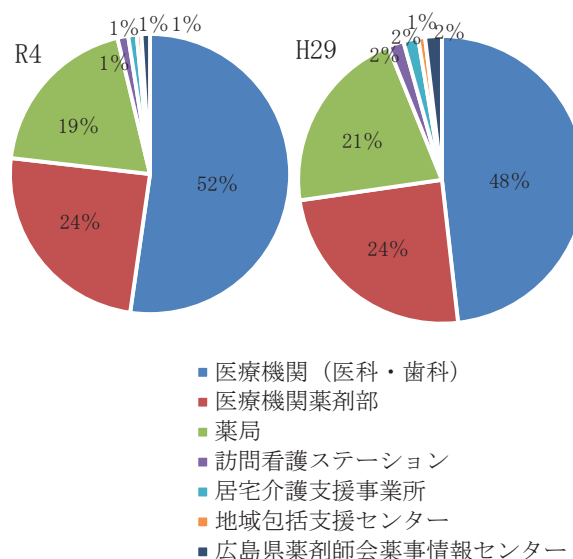


図23 診療所(歯科)の相談先

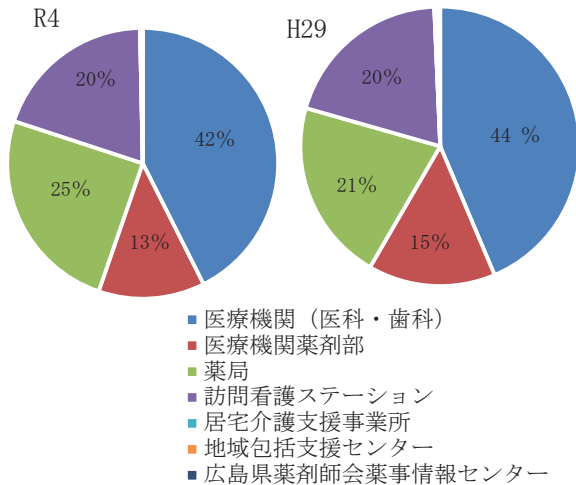


図 24 居宅介護支援事業所の相談先

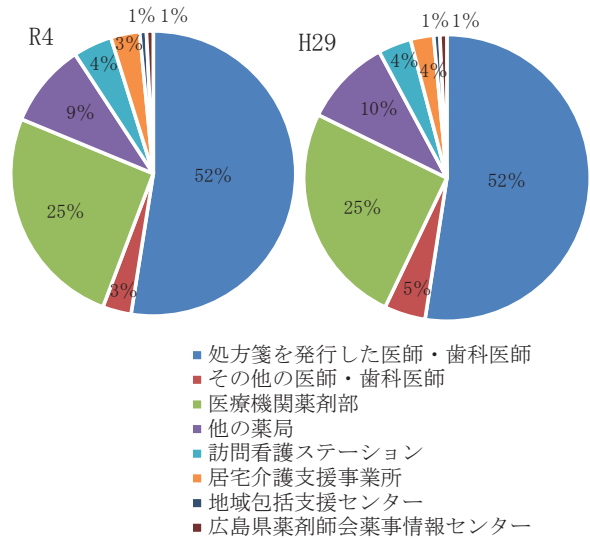


図 27 薬局の相談先

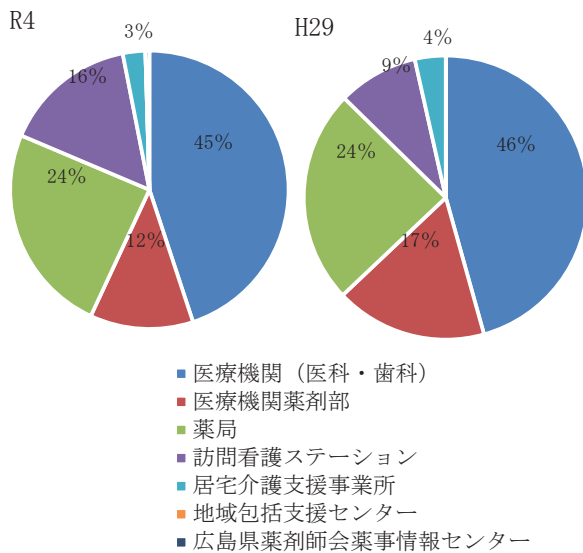


図 25 地域包括支援センターの相談先

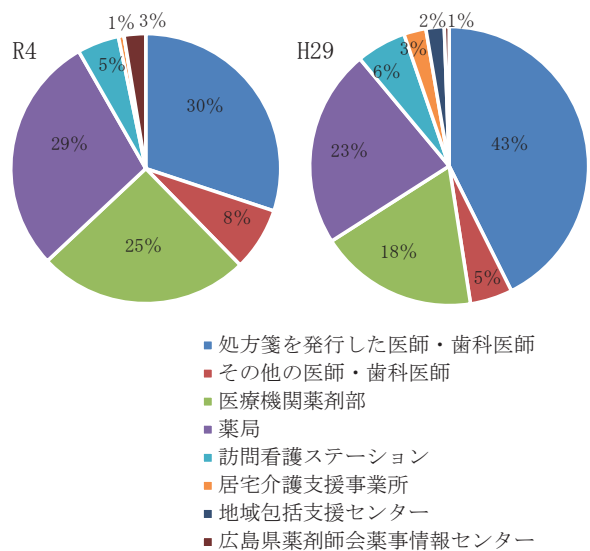


図 28 医療機関薬剤部の相談先

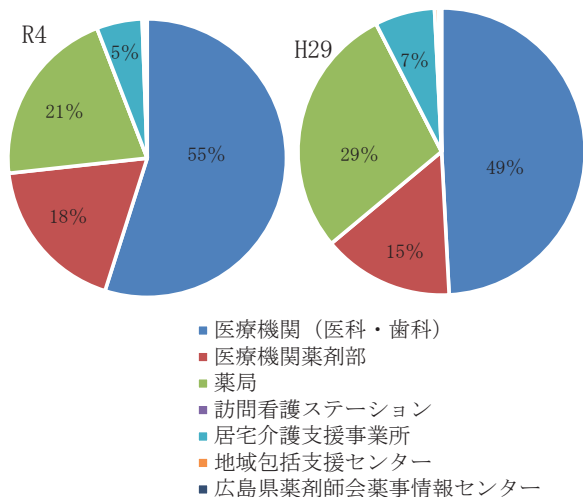


図 26 訪問看護ステーションの相談先

いずれの職種においても、医療機関やその薬剤部が相談先として最も多く挙げられ、続いて薬局が挙げられていた。また、介護職においては、医療機関又はその薬剤部、薬局に続いて訪問看護ステーションが他の職種と比較して割合が高かった。

また、患者に対しての「薬が多いことで困った際に誰に相談するか」は図 29 のとおり。平成 29 年度と比較して、令和 4 年度では薬局薬剤師を相談する相手として挙げる割合が増加していた。

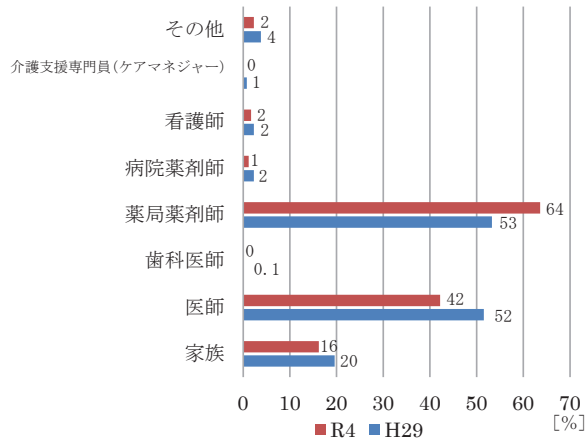


図 29 患者の相談先

(8) 医薬品が多いことに関する問題を解決するためのツールについて

医薬品に関する多職種の情報共有ツールとして「トレーシングレポート」を例として挙げ、医薬品に関する情報共有ツールを使ってみたく思うかを問い、思わない場合はその理由を自由記載欄に記入する設問を設定した。自由記載欄については、「お薬手帳の活用で十分だと思うから」を理由の例としており、同様の回答が最も多く得られた。「思わない」と回答した施設のうち、「お薬手帳の活用で十分だと思う」と回答した施設とそれ以外の回答を区分して回答を集計した結果は図 30-1、図 30-2 のとおり。各職種において高い割合でツールの利用が望まれている結果は変わらなかったものの、「お薬手帳の活用で十分だと思う」の理由でツールを活用したいと思わない施設の割合は減少した。活用したいと思わない具体的な理由としては、「業務の負担が増えるから」「多忙であるから」「電子処方箋に期待しているから」などといった理由が挙げられていた。

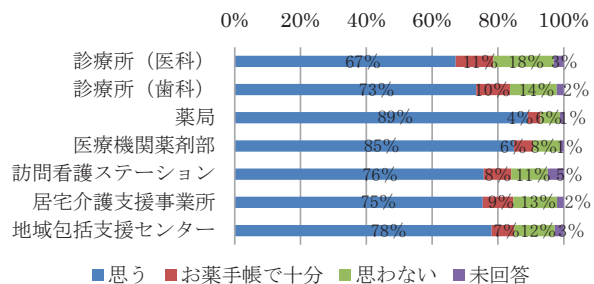


図 30-1 情報共有ツールの活用について (令和 4 年度)

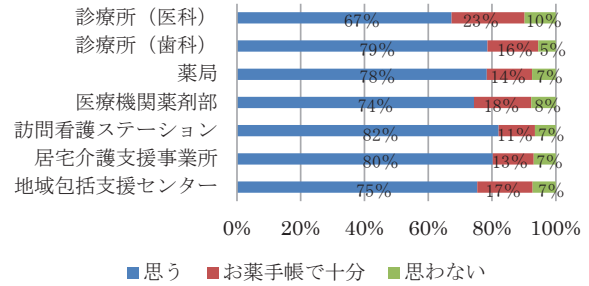


図 30-2 情報共有ツールの活用について (平成 29 年度)

3 調査結果 (薬局と多職種との連携)

(1) 患者情報の共有について

薬局以外の職種における薬局と患者情報の共有実績は図 31、薬局における関係職種との患者情報の共有実績は図 32 のとおりである。診療所 (歯科) を除く各職種において薬局との患者情報共有実績は高く、薬局側の実績も高い割合であった。

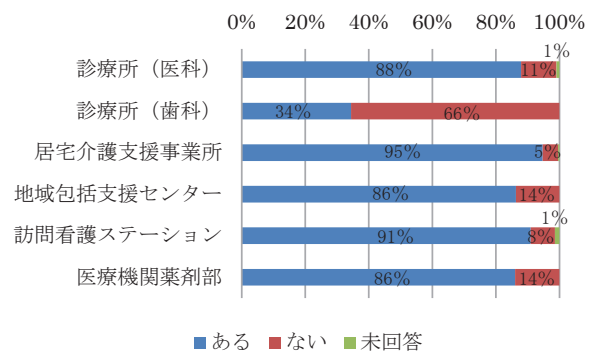


図 31 各職種の薬局との患者情報共有実績

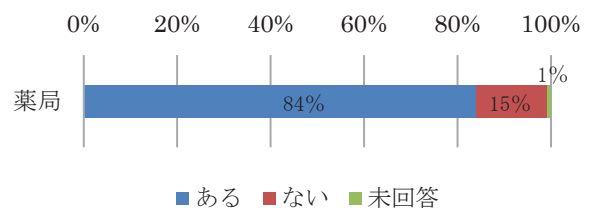


図 32 薬局の関係職種との患者情報共有実績

(2) 患者情報の共有以外の連携について

各職種と薬局の連携について、患者情報の共有以外の実績があるか、具体的な実績例として選択肢を提示した上で回答を求めたところ、図 33 (各職種)、図 34 (薬局) の結果が得られた。また、具体的な連携内容については、図 35 (各職種)、図 36 (薬局) の結果が得られた。診療所 (歯科) を除く職種は患者情報の共有以外でも連携が実施されており、主な

連携内容としては服薬指導や残薬の確認をはじめとする医薬品に関連する項目や服薬管理をはじめとする在宅医療関連業務が挙げられた。また、健康相談やセルフメディケーションに関することなど、薬局の多機能が各職種に利用されていた。

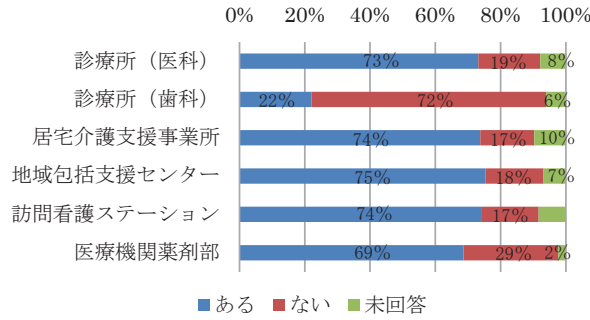


図 33 各職種の薬局との連携実績

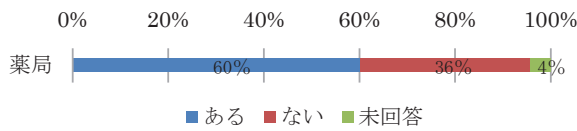


図 34 薬局の関係職種との連携実績

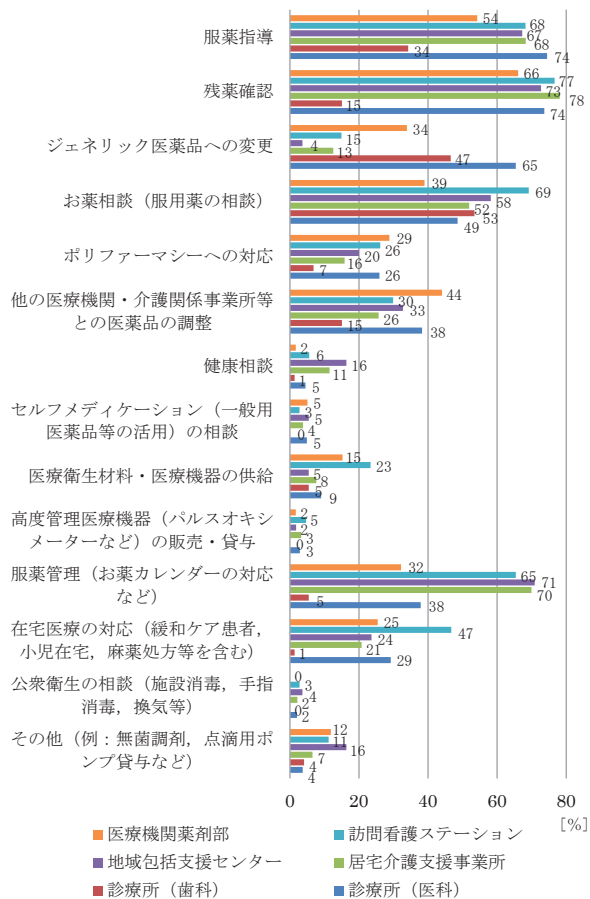


図 35 各職種の薬局との連携実績（具体的な内容）

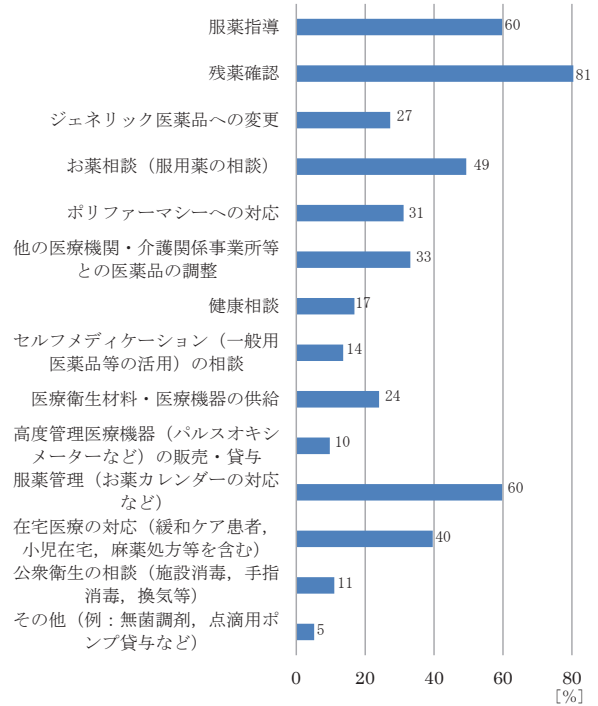


図 36 薬局の関係職種との連携実績（具体的な内容）

(3) 「おくすり相談シート」の認知度について

当委員会で作成し試行した「おくすり相談シート」は、令和3年度には、試行地域の関係職種に対する、周知活動や関係団体の会誌による紹介を実施していた。また、今年度は、広島県薬剤師会の実施する研修会や広島県のホームページなどで薬局と介護職種に対し広報活動を実施しているところである。これを踏まえ、各職種での現時点での「おくすり相談シート」の認知度を確認したところ、図37のとおりであった。各職種ともに「おくすり相談シート」の認知度は低かったが、看護・介護職種と薬局は、他の職種に比較して認知度が高い傾向があった。

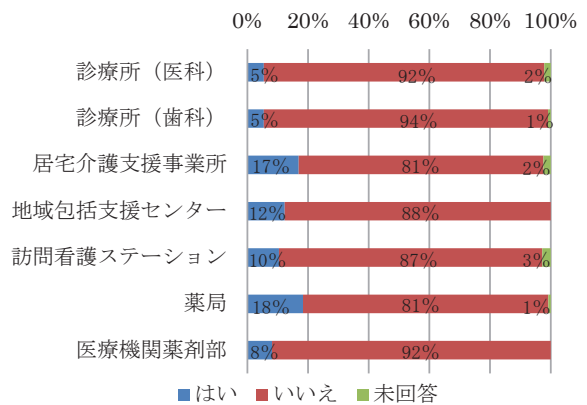


図 37 「おくすり相談シート」の認知度

(4) 今後の各職種と薬局の連携への期待について
 今後も患者へのよりよい医療提供のために多職種連携が求められていくことは自明であり、各関係職種と薬局との連携に注目し、各関係職種が薬局に今後期待する機能及び薬局が関係職種の要望に対応できる機能が何か、選択肢を設けて調査したところ、図38-1、図38-2及び図39の結果が得られた。

服薬指導や残薬確認、お薬相談といった、医薬品に関する業務は各職種から期待されており、薬局側も対応できる業務として挙げている。また、ポリファーマシーへの対応や他の医療機関・介護関係事業所等との医薬品の調整も期待される機能となっており、薬局側も対応のできる項目として比較的高い割合の結果が示された。その他、看護・介護職種や医療機関薬剤部では在宅医療に関する業務についても高い期待が寄せられており、薬局側の回答も対応できると回答する割合が比較的高い項目となっていた。

また、現在連携実績の少ない項目についてもある程度の期待が寄せられており、薬局側も対応できると回答があった。

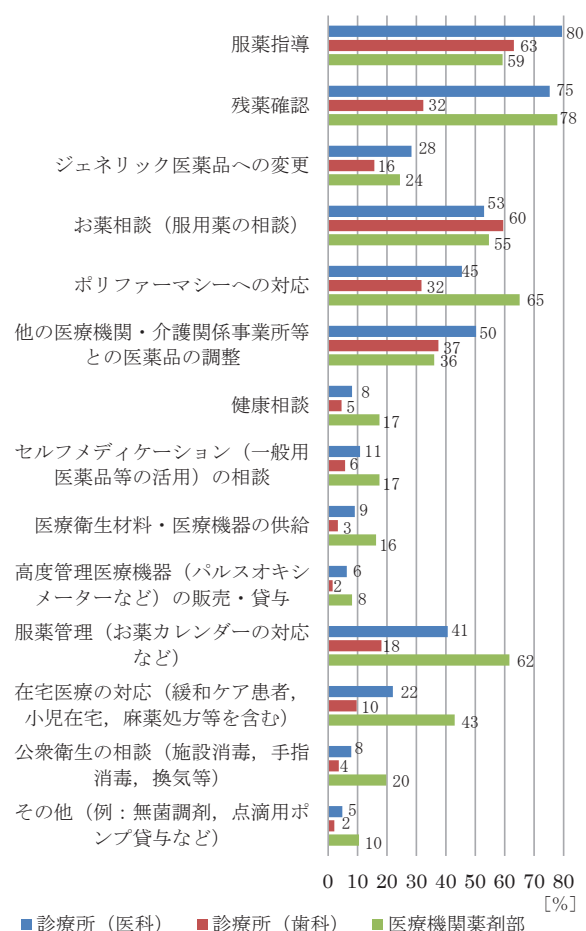


図38-1 薬局への期待（医療職種）

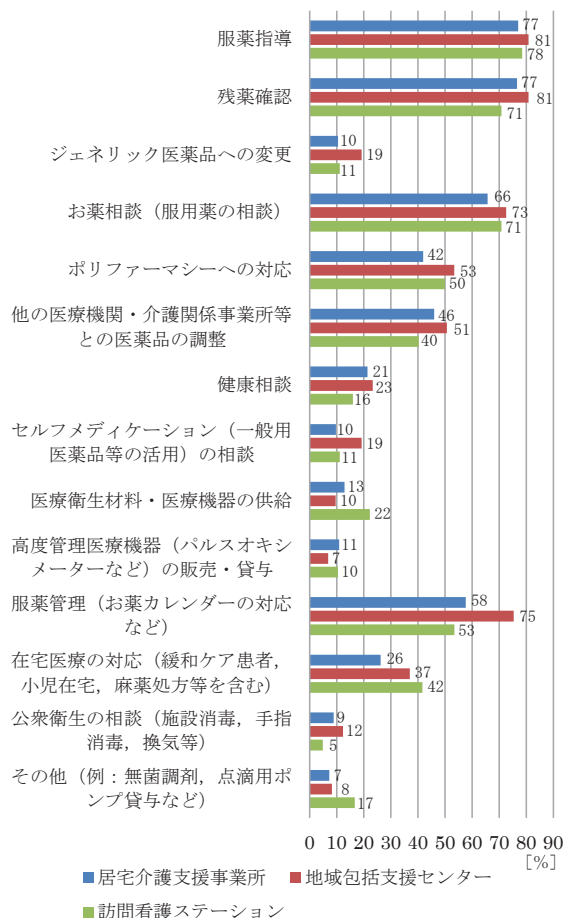


図38-2 薬局への期待（看護・介護職種）

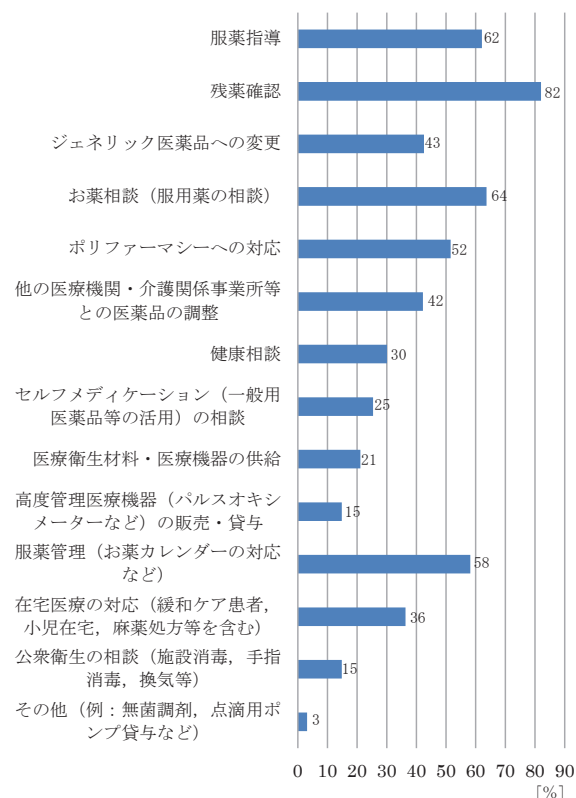


図39 薬局が実施可能な業務

その他で挙げられた具体的な内容としては、どの職種においても「点滴用ポンプの貸与」が挙げられており、介護職種からは患者に対する服用する医薬品のアドバイス（一包化や粉碎可能、認知症患者への対応など）なども多く挙がっていた。

(5) 各職種の薬の情報やポリファーマシー解決のための連携に関する工夫について

各職種で最も多く挙げた内容は普段より会話などを行うことで「顔の見える関係づくり」を行うことであった。介護職からは関係会議に薬剤師の参加を呼びかけること、看護職からは連絡ノートの利用による情報共有も多く挙げられた。また、医療職種からは、門前薬局との密な連携も複数挙げられており、より身近な薬局との連携が行われている回答があった。

Ⅲ. 講演会の開催

1 日時及び場所

日時：令和5年2月17日（金）19時～

開催方法：オンライン配信

講演会名：医薬品に関する講演会

～適切な服薬管理を目指して～

2 参加者

217名

3 演題および講師

演題：ポリファーマシー改善に向けた調査・検討結果（速報）

演者：広島県薬剤師会 常務理事 秋本 伸氏

演題：ケアマネジャーと薬剤師の連携による効果について

～在宅療養者の服薬問題に挑む『古河モデル』の実践～

演者：一般社団法人日本介護支援専門員協会 常任理事 能本守康氏

4 講演要旨

当委員会での本年度の調査・検討結果を速報という形で周知が行われた。

次に、茨城県古河市で実施されたケアマネジャーと薬剤師のツールを用いた連携モデルである、古河モデルについて講演があった。まず、「連携」とは、利用者のために異なる専門職種が互いを尊重しながら議論を行うことであり、それぞれの立場の役割を認識し、理解することはこれを進めるうえで重要な考え方であるという話があった。古河モデルはこの

「連携」におけるプロセスを大切にしたということであった。

古河モデルでは、「地域全体」を対象としていること、課題を「連携」によって解決しようとしていること、その連携が「仕組み化」されていること、仕組みに「専門性」がいかされていることを取組内容の中心とし、対象者は事業に参加する居宅介護支援事業所（市内利用者の45%を担当している）の「すべての」参加者として、薬局は市内の88.6%が参加したとのことであった。連携の方法は、

①ケアマネジャーが服薬気づきシートを用いて確認し、情報提供が必要と判断した場合は服薬管理スクリーニング結果シートに転記して薬局へ情報提供する。

②薬剤師はアセスメントを実施し、対応を実施した上で服薬管理アセスメントシートを記入し、ケアマネジャーに共有する。

③共有した情報をもとにそれぞれ適切な対応を実施する。

というステップを踏むとしており、1年半を3期に分けて実施された。

モデル事業の実施結果は、ケアマネジャーのスクリーニングにより多くの問題が発見されており、3期にわたって継続的に参加した参加者では、飲み忘れや飲みにくさ、不安や疑問が減少しているほか、残薬が大きく減少するという結果が得られ、連携の効果があるといえるとのことであった。ケアマネジャーからの情報共有により、薬剤師だけでは解決できなかった課題の解決につながったという事例が複数確認でき、このことから効果ありと判断できるとのことであり、ケアマネジャーからもこのような確認は定期的に必要であるという意見が多く寄せられたとのことであった。

このような事業を行うには、「すべてのかかりつけ薬局が参加する」という必要があり、古河モデルではこれが達成できていたのも大きなポイントであるとのことであった。

継続性のある取組は効果が期待される場所であり、継続して取り組んでいくというところは古河モデルでも課題となっている。また、この継続した連携には効果があると示していくには、多くの地域での同様の取組が必要であるとのことであった。古河モデルでは、ケアマネジャーを中心として、薬剤師に限らない情報共有ツールを作成しており、連携の

拡大、継続的取組の実施に取り組んでいるとのことであり、現在使用しているツールの紹介がされるとともに、今後も^こ古河市では多職種の連携に取り組んでいくため、各地域でも実践してほしいとの話があった。

5 参加者へのアンケート結果

回答数：116件（53.5%）

講演会参加者に対して、別紙のアンケート調査票により講演会の感想などに関する回答を得た。回答者の職種内訳は表1のとおりである。

表1 講演会の参加職種及び人数

職種	人数
医師	1
歯科医師	0
看護師	6
薬剤師	75
介護支援専門員	23
行政職員	8
その他	3
合計	116

講演会参加の動機については、表2のとおり（複数回答可）であった。

表2 講演会参加の動機

項目	人数
ポリファーマシーや多剤使用の問題全般に関心があったため	84
多職種協働チームを活用したポリファーマシー回避に関する特別講演に関心があったため	78
その他 ・連携について（関心があったため）	

講演会の業務内容が参考になったかどうかについては、表3のとおりである。

表3 講演会が参考になったかどうか

項目	講演1	講演2
大変参考になった	78	91
少し参考になった	37	23

また、当委員会で作成した「おくすり相談シート」、特別講演で紹介のあった「在宅服薬気づきシート」などの情報共有ツールについて利用したいと思

うかについては、表4のとおりであった。

表4 情報共有ツールを利用したいと思うか

項目	人数
すでに活用している	4
活用したいと思う	90
活用したいが難しい	20
活用したいと思わない	0

また、医薬品に関する聞いてみたい研修内容や関心のある調査・研究内容について自由記載で意見を募集したところ、介護支援専門員は認知症患者と医薬品に係る内容を挙げる参加者が多かった。薬剤師からは多種多様な意見が挙げられており、ポリファーマシーやツールの活用に関しては好事例やトレーシングレポートの活用についてなど、そのほかについては、ジェネリック医薬品の推進に関すること、在宅医療での薬局への多職種からの期待や好事例などが挙げられた。

IV. 考察・まとめ

1 調査結果（平成29年度との比較）について

平成29年度の結果と比較すると、「多いと感じる医薬品の種類の数」は、前回同様、医療機関薬剤部では6種類、薬局は前回5種類から今回6種類が最も多くなっていったが、それ以外の職種及び患者では5種類が最も多かった。「高齢者の医薬品適正使用の指針」及び「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン」において、服用薬が6種類以上になると特に有害事象発生率が上昇するとされており、指針やガイドラインの周知が影響した可能性が考えられる。また、薬局と医療機関薬剤部については、それぞれポリファーマシー解消に対する取り組みを評価した診療報酬算定要件の一つとして「6種類以上の内服薬が処方・調剤されている患者」があり、この算定要件が6種類との回答が最も多かった要因に影響している可能性が推察される。

服用している薬が多いことで問題があると回答した施設は、診療所（医科）では増加し、看護・介護職種では減少していた。また、医療機関薬剤部の相談先として薬局や他の医療機関の割合が増加していることから、退院時の薬の整理や調整が進んでいることが示唆される。各関係職種の問題意識を共有し、解決する場が増加すると、薬が多いことに関する問

題解決がさらに進む可能性がある。

令和2年度、令和3年度で試行した「おくすり相談シート」などの医薬品の情報共有ツールについては、いずれの職種においても6割以上が必要と回答していたが、業務多忙などから新たなツールの取組は難しいとの意見もあった。一方で、ツールとして「お薬手帳で十分」と回答した割合はいずれの職種においても減少していたことから、簡便でより多くの情報共有ができるツールが必要であることが示唆される。ポリファーマシーの改善には関係職種の情報共有が必要不可欠となり、医薬品に関して多職種をつなぎ、問題解決を図るため情報共有ツールの様式や運用方法、広報活動などさらなる検討が必要であると考えられる。

2 調査結果（薬局と多職種との連携）について

薬局と関係職種の連携では、患者情報の共有を行うという連携については多くの施設で実施されており、連携の体制が整っていることが示唆された。患者情報の共有以外の連携については、服薬指導や残薬の確認をはじめとする医薬品に関連する項目や服薬管理をはじめとする在宅医療関連業務が多く挙げられており、医薬品と患者に関係する業務についての連携が実施できる体制が広く整備されていることが示唆された。一方、医薬品に関する対応や在宅関連の対応以外の健康相談やセルフメディケーションの相談など薬局機能については、連携の実績は少ないものの、薬局の機能として期待されていることが示されており、薬局は多様な機能を備えたうえで、関係職種に役割を示していく必要があると考えられる。また、ポリファーマシーに関する薬局との連携についてはいずれの職種においても実績があり、薬局へ相談したい、実施してほしい業務としても要望が高かったことから、ポリファーマシーへの対応は、今後も薬局に大きく期待される役割の1つと言えると考えられる。

また、「おくすり相談シート」については、認知度が低い状態ではあったものの、看護・介護職種と薬局は、他の職種に比較して認知度が高い傾向があり、研修などの機会でも周知、広報を行った結果が表れていると考えられる。情報共有ツールとして評価を得ている「おくすり相談シート」は、今後も様々な機会を通して周知、広報されることで認知され、使用されることで、多職種連携の発展とポリファーマシーの解消に寄与できる可能性があるといえる。

V. 終わりに

今回の調査では、依然として各関係職種が「ポリファーマシーによる問題を感じていること」が判明した。この「ポリファーマシーの解消」には、関係職種から薬局の機能として大きく期待されていることが示されており、医薬品に関する専門家としての薬局や薬剤師への関係職種からの期待は非常に高いものである。また、薬局はポリファーマシーをはじめ、服薬指導や残薬確認、セルフメディケーション、医療衛生資材や医療機器の提供など多機能を備えており、関係職種にその機能を示していくことで患者の生活に更に寄与する働きが可能となるといえる。

医療・介護関係職種のポリファーマシーに関する理解や課題認識は、一定程度進んでいる一方で、現状、解決のための取組は進んでいない。薬局は、医薬品に関する専門家として多職種と連携する中で専門性を発揮し、患者へのアプローチや問題解決への働きを行うとともに、薬局の備える多機能を積極的に周知し、「患者のための薬局」としての働きをより強化する必要があるといえる。

また、「おくすり相談シート」は、服薬した者による何らかのシグナルへの気づきと気づきの共有として有効と考えられる。

多職種連携の強化として、顔の見える関係づくりのきっかけとして、「おくすり相談シート」をはじめとした連携ツールの活用推進を行うことが必要であると考えられる。

VI. 参考資料

- ・平成30年5月29日付け医政安発0529第1号および薬生安発0529第1号厚生労働省医政局総務課医療安全推進室長及び同省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長通知「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）について」
- ・令和元年6月14日付け医政安発0614第1号及び薬生安発0614第1号厚生労働省医政局総務課医療安全推進室長及び同省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長通知「高齢者の医薬品適正使用の指針（各論編（療養環境別））について」

診療所 (医科) 用

多剤使用に関するアンケート

問1 貴診療所についてお聞かせ下さい。

診療所の所在地はどちらの医療圏ですか。	医療圏二次医療圏別の区分でお答えください。
所在地	医療圏内市町
<input type="checkbox"/> 1 広島	広島市、安芸高田市、府中市、海田市、鹿野町、坂町、北広島町
<input type="checkbox"/> 2 広島西	大竹市、廿日市市
<input type="checkbox"/> 3 広島東	呉市、江田島市
<input type="checkbox"/> 4 広島中央	広島基市、竹原市、大庄上島町
<input type="checkbox"/> 5 広島北	三原市、尾道市、世田町
<input type="checkbox"/> 6 福山・府中	福山市、府中市、神石高岡町
<input type="checkbox"/> 7 備北	三次市、庄原市

問2 貴診療所の診療科について、該当するものを選んでください。(複数選択可)

- 1 内科
- 2 小児科
- 3 精神科・神経科
- 4 脳神経外科・神経内科
- 5 外科・整形外科
- 6 泌尿器科
- 7 皮膚科
- 8 産科・婦人科
- 9 眼科
- 10 耳鼻咽喉科
- 11 歯科
- 12 その他 ()

問3 貴診療所における「薬の多さ」への認識についてお聞かせ下さい。

- (1) 貴診療所の使用している医薬品について何種類以上を「多い」ととらえていますか。
- 1 2種類
 - 2 3種類
 - 3 4種類
 - 4 5種類
 - 5 6種類
 - 6 7種類
 - 7 8種類
 - 8 9種類
 - 9 10種類
 - 10 それ以上 (具体的な数字を記載してください。)

(2) 普段の業務の中で、薬を服用している患者に、ポリファーマシーなどの問題が生じていると感じることがありますか。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 その他 (以下に具体的に記載してください。)

問4 貴診療所における多くの種類の医薬品を服用することに関する問題についてお聞かせ下さい。

(1) 多くの種類の医薬品を服用している患者において、何らかの問題が生じていると感じられた際の相談先として、優先順位が高いと思われる3つを選んで、その数字を下の枠内に記載してください。(現在、同様の相談を行っていない場合は、今後相談を行うことを想定して選択してください。)

- 1 患者の利用している他の医療機関 (内科・歯科)
- 2 患者の利用している他の医療機関 (薬剤師)
- 3 患者の利用している薬局
- 4 患者の利用している訪問看護ステーション
- 5 患者の利用している在宅介護支援センター
- 6 患者の利用している地域包括支援センター
- 7 広島県薬剤師会薬事情報センター
- 8 その他

優先順位1位— 優先順位2位— 優先順位3位—
 [0 その他] を選んだ場合は具体的に記載してください。

診療所 (医科) 用

(2) 医薬品の使用状況把握するためには「お薬手帳」が有効であると考えられます。また、お薬手帳に加えて、多剤利用と患者の薬の情報を共有するための連携ツール(オンラインレポート等)を活用するといった取組も実行している地域もあります。そういった取組の取組みを行ってみたいと思いませんか。

- 1 思う
- 2 思わない
- 3 その他 (理由を記入してください)

※その他、服用する薬が多い事に関して御意見、お気づきの点などがあれば、御自由にお書きください。

問4 薬物と患者情報の共有をしたことがありますか。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 その他 (理由を記入してください)

(2) (1)以外で、薬局との連携を実施したことがありますか(※連携の内容は(3)の選択肢を参考にしてください。)

- 1 ある
- 2 ない
- 3 その他 (理由を記入してください)

(4) 当薬局では、「おくすり相談シート」という薬局との連携ツールを作成しています。
 ※「おくすり相談シート」について御存じですか。

(5) 薬の(種類や)ポリファーマシーに関して、薬局との連携など、多剤連携を進めようとして積極的を実施していること、正していることはありますか。

診療所 (医科) 用

(6) 薬局や薬剤師にはどのようなことを相談したい、質問してほしいと思いませんか。

- 1 医薬品情報
- 2 処方箋情報
- 3 ジェネリック医薬品への変更
- 4 お薬相談 (服用薬の相談)
- 5 ポリファーマシーへの対応
- 6 他の医療機関・介護関係事業者等との医薬品の調整
- 7 健康相談
- 8 セルフメディケーション (一般用医薬品等の活用) の相談
- 9 医療衛生材料・医療機器の供給
- 10 高度管理医療機器 (ハルスオキシメーターなど) の販売・貸与
- 11 医薬品管理 (お薬カレンダーの対応など)
- 12 在宅医療の相談 (緩和ケア患者、小児在宅、療養施設等を含む)
- 13 公衆衛生の相談 (感染症対策、手洗い指導、検疫等)
- 14 その他 (例：無菌調剤、点滴用ポンプ貸与など)

***** 質問は以上です。御協力ありがとうございます。*****

多剤使用に関するアンケート

問1 貴診療所についてお聞かせください。広島県二次医療圏別の区分をお答えください。

診療所名	医療圏内市町
<input type="checkbox"/> 1 広島市、安芸高田市、府中市、港田町、能勢町、安芸太田町、北広島町	
<input type="checkbox"/> 2 広島西、大竹市、廿日市町	
<input type="checkbox"/> 3 広島東、呉市、江田島市	
<input type="checkbox"/> 4 広島中央、広島中央、竹原市、大庄上郡町	
<input type="checkbox"/> 5 広島南、広島市、世田町	
<input type="checkbox"/> 6 福山市、府中市、神石高原町	
<input type="checkbox"/> 7 備北、三次市、田原市	

問2 貴診療所における「薬の多さ」への認識についてお聞かせください。

- (1) 患者の服用、使用している医薬品について何種類以上を「多い」ととらえていますか。
- 1 2種類
 - 2 3種類
 - 3 4種類
 - 4 5種類
 - 5 6種類
 - 6 7種類
 - 7 8種類
 - 8 9種類
 - 9 10種類
 - 10 それ以上（具体的な数字を記載してください）

(2) 群別の業務の中で、薬を服用している患者に、ポリファーマシーなどの何らかの問題が生じていると感じていますか。

- 1 ある
- 2 ない

→ある場合、具体的にどのような問題が生じていると感じますか。（複数回答可）

- 1 薬剤関連の有害事象の発生（薬剤間の相互作用を含む）
- 2 服薬アドヒアランスの低下（飲み忘れの増加、服薬をやめしてしまう、など）
- 3 その他（以下に具体的に記載してください。）

問3 貴診療所における多くの種類の医薬品を服用することに関する問題への対応についてお聞かせください。

(1) 多くの種類の医薬品を服用している患者において、何らかの問題が生じていると感じていますか。（複数回答可）

- 1 今後相談を行うことを想定して、その患者をその体系的に記録してください。（現在、同様の相談を行っていない場合は、今後相談を行うことを想定して選択してください。）
- 2 患者の利用している他の医療機関（内科・歯科）
- 3 患者の利用している他の医療機関（薬剤師）
- 4 患者の利用している薬剤師ネットワーク
- 5 患者の利用している居宅介護支援事業所
- 6 患者の利用している地域包括支援センター
- 7 広島県薬剤師会薬事情報センター
- 8 その他

優先順位 1位— 優先順位 2位— 優先順位 3位—

「8 その他」を選ぶ場合は具体的に記載してください。

(2) 医薬品の使用状況を把握するためには「お薬手帳」が有効であると考えられます。また、お薬手帳に加えて、多職種間で患者の薬の情報を共有するために未着手であるとの連絡票（トレーシングシート等）を活用するといった取組みを行っている地域もあります。そういった何らかの取組みを行っているかと思いませんか。

- 1 思う
- 2 思わない

⇒思わない場合、その理由について記載してください。（自由記載 例：お薬手帳の活用で十分だと考えられるから）

[]

※その他、服用する薬が多い事に関して御意見、お気づきの点などがあれば、御自由にお書きください。

[]

問4 貴診療所と薬局との連携状況についてお聞かせください。

(1) 薬局と患者情報の共有を促したことがありますか。

- 1 ある
- 2 ない

(2) (1)以外で、薬局との連携を要したことがありますか。（※連携の内容は(3)の選択肢を参考にしてください。）

- 1 ある
- 2 ない

(3) (2)で「ある」と答えた方にお聞かせします。どのような内容で連携を実施しましたか。

- 1 医薬品情報
- 2 処方箋確認
- 3 ジェネリック医薬品への変更
- 4 お薬相談（服用薬の相談）
- 5 ポリファーマシーへの対応
- 6 他の医療機関・介護関係事業所等との医薬品の調整
- 7 健康相談
- 8 セルフメディケーション（一般用医薬品等の活用）の相談
- 9 医療衛生材料・医療機器の供給
- 10 高度管理医療機器（ハルスオキメーターなど）の販売・貸与
- 11 服薬管理（お薬カレンダーの対応など）
- 12 在宅医療の対応（緩和ケア患者、小児在宅、併薬処方等を含む）
- 13 公衆衛生の相談（施設消毒、手指消毒、換気等）
- 14 その他（例：無菌調剤、点滴用ポンプ貸与など）

(4) 当委員会では、「おくすり相談シート」という薬局との連携ツールを作成しています。

「おくすり相談シート」について御存じですか。

- 1 はい
- 2 いいえ

(5) 薬の情報はポリファーマシーに関して、薬局との連携など、多職種連携を進めるうえで積極的に実施していること、工夫していることはありますか。

[]

(6) 薬局や業種間にはどのようなことを相談したい、実施してほしいと思いますか。

- 1 服薬指導
- 2 処方箋確認
- 3 ジェネリック医薬品への変更
- 4 お薬相談（服用薬の相談）
- 5 ポリファーマシーへの対応
- 6 他の医療機関・介護関係事業所等との医薬品の調整
- 7 健康相談
- 8 セルフメディケーション（一般用医薬品等の活用）の相談
- 9 医療衛生材料・医療機器の供給
- 10 高度管理医療機器（ハルスオキメーターなど）の販売・貸与
- 11 服薬管理（お薬カレンダーの対応など）
- 12 在宅医療の対応（緩和ケア患者、小児在宅、併薬処方等を含む）
- 13 公衆衛生の相談（施設消毒、手指消毒、換気等）
- 14 その他（例：無菌調剤、点滴用ポンプ貸与など）

[]

***** 質問は以上です、御協力ありがとうございました。*****

多剤使用に関するアンケート

図1 貴事業所においてお住まいします。

チェック欄	町域名	施設内併用
<input type="checkbox"/> 1	広島県 広島市、広島県広島市、府中町、海田町、能勢町、坂町、安芸太田町、北広島町	
<input type="checkbox"/> 2	広島県 広島市、安芸高田市、府中町、廿日市町	
<input type="checkbox"/> 3	広島県 呉市、江田島市	
<input type="checkbox"/> 4	広島県中核 福山市、竹原市、大庄上島町	
<input type="checkbox"/> 5	広島県 尾三 三原市、尾道市、世羅町	
<input type="checkbox"/> 6	広島県 福山市、府中町、神石高原町	
<input type="checkbox"/> 7	広島県 備前	

図2 貴事業所における「薬の多さ」への認識についてお聞かせください。

(1) 利用者の服用、使用している医薬品について何種類以上を「多い」ととらえていますか。

- 1 2種類 6 7種類
- 2 3種類 7 8種類
- 3 4種類 8 9種類
- 4 5種類 9 10種類
- 5 6種類 10 それ以上 (具体的な数字を記載してください→ 種類以上)

(2) 専従の業務の中で、薬を服用している利用者に、ポリファーマシーなどの所からの問題が生じていると感じることはありますか。

- 1 ありません
- 2 ない
- 3 ある場合、具体的にどのような問題が生じていると感じますか。(複数回答可)
- 1 処方つきやせん薬が処方される
- 2 処方忘れが頻える、薬を飲まなくなる
- 3 薬を飲ませるのが大変になる
- 4 その他 (以下に具体的に記載してください)

図3 貴事業所における多くの種類の医薬品を服用することに関する問題への対応についてお聞かせください。

(1) 多くの種類の医薬品を服用している利用において、何らかの問題が生じていると感じた際の対応策として、優先順位が高い順に3つ選んで、その数字を下の表に記入してください。(現在、同様の対応を行っている場合は、今般相違を行うことを加えて選択してください)

- 利用者が理解利用している医師(医師、薬剤師)
- 利用者が理解利用している医療機関 (薬剤師)
- 利用者が理解利用している薬局
- 利用者が理解利用している訪問看護ステーション
- 利用者が理解利用している地域包括ケアセンター
- 広島県薬剤師会薬事情報センター
- その他

優先順位1位 優先順位2位 優先順位3位

その他、1を選んだ場合は具体的に記載してください

(2) 医薬品の処方状況を把握するためには「お薬手帳」が有効であると考えられます。また、お薬手帳に加えて、多剤服用で利用者の薬の管理について共有するための連絡票 (トレーシングレポート等) を活用するといった取組みを行っている地域もあります。そういった向からの取組みを行っていますか。

- 1 思わない
- 2 思う
- 3 思う
- ⇒ 思わない場合、その理由について記載してください。(自由記載 例: お薬手帳の活用で十分だと考えられるから)

※その他、服用する薬が多い事に関して御意見、お気づきの点などがあれば、御自由にお書きください。

(5) 薬の情報やポリファーマシーに関して、薬師との連携など、多剤連携を運ぶるうえで積極的に実施していること、工夫していることはありますか。

- 1 医薬品情報
- 2 処方調整
- 3 ジェネリック医薬品への変更
- 4 お薬相談 (服用薬の相談)
- 5 ポリファーマシーへの対応
- 6 他医療機関、介護関係事業所等との医薬品の調整
- 7 情報相談
- 8 セルフメディケーション (一般用医薬品等の活用) の相談
- 9 医療衛生材料・医療機器の供給
- 10 高度管理医療機器 (パルスオキシメーターなど) の販売・貸与
- 11 服薬管理 (お薬カレンダーの対応など)
- 12 在宅医療の対応 (緩和ケア患者、小児在宅、療養処方等を含む)
- 13 公衆衛生の相談 (施設消毒、手指消毒、換気等)
- 14 その他 (例: 無菌調剤、点滴用ポンプ貸与など)

(6) 薬師や薬剤師にはどのようなことを相談したい、実施してほしいと思いますか。

- 1 医薬品情報
- 2 処方調整
- 3 ジェネリック医薬品への変更
- 4 お薬相談 (服用薬の相談)
- 5 ポリファーマシーへの対応
- 6 他医療機関、介護関係事業所等との医薬品の調整
- 7 情報相談
- 8 セルフメディケーション (一般用医薬品等の活用) の相談
- 9 医療衛生材料・医療機器の供給
- 10 高度管理医療機器 (パルスオキシメーターなど) の販売・貸与
- 11 服薬管理 (お薬カレンダーの対応など)
- 12 在宅医療の対応 (緩和ケア患者、小児在宅、療養処方等を含む)
- 13 公衆衛生の相談 (施設消毒、手指消毒、換気等)
- 14 その他 (例: 無菌調剤、点滴用ポンプ貸与など)

***** 質問は以上です。御協力ありがとうございました。*****

多剤使用に関するアンケート

【注】 貴センターについてお伺いします。

貴センター所在地とどちらの医師ですか。広島県二次医療圏の区分でお答えください。

チェック欄	医師名	地域別用印
<input type="checkbox"/> 1	広島	広島県田原市、府中町、徳田町、田原町、坂町、安芸太田町、北広島町
<input type="checkbox"/> 2	広島西	大竹市、廿日市
<input type="checkbox"/> 3	呉	呉市、江田島市
<input type="checkbox"/> 4	広島中央	東広島市、竹原市、大庄上郷町
<input type="checkbox"/> 5	尾三	三原市、尾道市、世羅町
<input type="checkbox"/> 6	福山・府中	福山市、府中市、神石高原町
<input type="checkbox"/> 7	備北	三次市、庄原市

【注】 貴センターにおける「薬のまさ」への認識についてお伺いします。

(1) 利用者の服用、使用している医薬品について何種類以上を「多い」ととらえていますか。

- 1 2種類
- 2 3種類
- 3 4種類
- 4 5種類
- 5 6種類
- 6 7種類
- 7 8種類
- 8 9種類
- 9 10種類
- 10 それ以上（具体的な数字を記載してください）

(2) 普段の業務の中で、薬を服用している利用者、ポリファーマシーなどの向からの問題が生じていると感じることはありますか。

- 1 ある
- 2 ない

⇒ある場合、具体的にどのような問題が生じていると感じますか。（複数回答可）

- 1 おかつやせやふやせがみられる
- 2 飲み忘れが増える、薬を飲まなくなる
- 3 薬を飲ませるのが大変になる
- 4 その他（以下に具体的に記載してください）

【注】 貴センターにおける多くの種類の医薬品を服用することに関する問題への対応についてお伺いします。

(1) 多くの種類の医薬品を服用している利用員において、何らかの問題が生じていると感じた際の対応として、優先順位が高いと考える3つを選んで、その数字を下の枠内に記載してください。（現在、同様の相談を行っている場合は、今後相談を行うことを想定して選択してください。）

- 1 利用者や家族が服用している医薬品
- 2 利用者や家族が服用している医薬品（医師・薬剤師）
- 3 利用者や家族が服用している医薬品（薬剤師）
- 4 利用者や家族が服用している医薬品（薬剤師）
- 5 利用者や家族が服用している医薬品（薬剤師）
- 6 広島県医師会薬事情報センター
- 7 その他

優先順位1位— 優先順位2位— 優先順位3位—

【注】 その他、を認めた場合は具体的に記載してください。

(2) 医薬品の説明書や薬剤師の指導に基づいて「お薬手帳」が有効であると考えられます。また、お薬手帳に加えて、多剤利用で利用者の薬の管理について共有するための連絡票（トレーシングレポート等）を活用するといった取組みを行っている地域もあります。そういつた向からの取組みを行ってみたいと思いますか。

- 1 思う
- 2 思わない

⇒思わない場合、その理由について記載してください。（自由記載 例：お薬手帳の活用で十分だと考えられるから）

[]

※その他、服用する薬が多い事に関して御意見、お気づきの点などがあれば、御自由にお書きください。

[]

【注】 貴センターと薬局との連携状況についてお伺いします。

(1) 薬局と利用者情報の共有をしたことがありますか。

- 1 ある
- 2 ない

(2) (1)以外で、薬局との連携を実施したことがありますか（※連携の内容は(3)の選択肢を参考にしてください）。

- 1 ある
- 2 ない

(3) (2)で「ある」と答えた方にお聞きします。どのような内容で連携を実施しましたか。

- 1 処方確認
- 2 処方確認
- 3 ジェネリック医薬品の変更
- 4 お薬相談（服用薬の相談）
- 5 ポリファーマシーへの対応
- 6 他の医療機関・介護関係事業者等との医薬品の調整
- 7 健康相談
- 8 セルフメディケーション（一般用医薬品等の活用）の相談
- 9 医療衛生材料・医療機器の供給
- 10 高度管理医療機器（ウルスオキシメーターなど）の販売・貸与
- 11 医療管理（お薬カレンダー、処方箋）の取扱い
- 12 在宅医療の対応（緩和ケア患者、小児在宅、療養処方を含む）
- 13 公衆衛生の相談（施設消毒、手指消毒、換気等）
- 14 その他（例：無菌調剤、点滴用ポンプ貸与など）

(4) 当委員会では、「おくすり相談シート」という薬局との連携ツールを作成しています。

おくすり相談シートについてはこちら ⇒ https://www.pref.hiroshima.lg.jp/osshiki/59/chi_takhour-iyakuhin.html

- 1 はい
- 2 いいえ

(5) 薬の情報やポリファーマシーに関して、薬局との連携など、多剤連携を運ぶうえで積極的に実施していること、工夫していることはありますか。

[]

(6) 薬局や薬剤師にどのようなことを相談したい、実施してほしいと思っていますか。

- 1 処方確認
- 2 処方確認
- 3 ジェネリック医薬品の変更
- 4 お薬相談（服用薬の相談）
- 5 ポリファーマシーへの対応
- 6 他の医療機関・介護関係事業者等との医薬品の調整
- 7 健康相談
- 8 セルフメディケーション（一般用医薬品等の活用）の相談
- 9 医療衛生材料・医療機器の供給
- 10 高度管理医療機器（ウルスオキシメーターなど）の販売・貸与
- 11 医療管理（お薬カレンダーの対応など）
- 12 在宅医療の対応（緩和ケア患者、小児在宅、療養処方を含む）
- 13 公衆衛生の相談（施設消毒、手指消毒、換気等）
- 14 その他（例：無菌調剤、点滴用ポンプ貸与など）

[]

***** 質問は以上です。御協力ありがとうございました。*****

訪問看護ステーション用

多剤使用に関するアンケート

問1 基ステーションについてお聞かせください。

貴ステーションの所在地はどちらの区域ですか。広島県二次医療圏別の区分で答えてください。

ステーション名	所属区域
<input type="checkbox"/> 1	広島 広島市、安芸高田市、府中町、海田町、鹿野町、坂町、安芸太田町、北広島町
<input type="checkbox"/> 2	広島 大竹市、廿日市
<input type="checkbox"/> 3	呉 呉市、江田島市
<input type="checkbox"/> 4	広島中央 福山市、竹原市、大野上郡町
<input type="checkbox"/> 5	尾三 三原市、尾道市、世羅町
<input type="checkbox"/> 6	福山・府中 福山市、府中市、神石高原町
<input type="checkbox"/> 7	福北 三次市、庄原市

問2 基ステーションにおける「薬の多さ」への認識についてお聞かせください。

(1) 単剤の使用、使用している医薬品について何種類以上を「多い」ととらえていますか。

<input type="checkbox"/> 1	2種類	<input type="checkbox"/> 6	7種類
<input type="checkbox"/> 2	3種類	<input type="checkbox"/> 7	8種類
<input type="checkbox"/> 3	4種類	<input type="checkbox"/> 8	9種類
<input type="checkbox"/> 4	5種類	<input type="checkbox"/> 9	10種類
<input type="checkbox"/> 5	6種類	<input type="checkbox"/> 10	それ以上（具体的な数字を記載してください）

（2）業務の業務の中で、薬を服用している患者に、ポリファーマシーなどの何らかの問題が生じていると認めることはありますか。

1 ある 2 ない

→ある場合、具体的にどのような問題が生じていると感じますか。（複数回答可）

1 薬剤間相互作用の発生（薬剤間の相互作用を含む）

2 薬剤アドヒアランスの低下（飲み忘れの増加、服薬をやめたりする、など）

3 薬名がまとまらない状況になる。

4 その他（以下に具体的に記載してください。）

問3 基ステーションにおける多くの種類の医薬品を使用することに関する問題への対応についてお聞かせください。

(1) 薬を多く服用している患者において、何らかの問題が生じていると感じている対応として、優先順位が高いと考える順に3つ選んで、その順序を下の枠内に記載してください。（現在、同様の対応を行っていない場合には、今後対応を行うことを想定して選択してください。）

- 患者の利用している他の医薬品（医師・薬剤師）
- 患者の利用している他の医療機関（薬剤師）
- 患者の利用している薬剤
- 患者の利用している処方箋と調剤薬局
- 患者の利用している地域住民支援センター
- 広島県薬剤師会薬師情報センター
- その他

優先順位1位～ 優先順位2位～ 優先順位3位～

7. その他、薬名などは具体的に記載してください。

訪問看護ステーション用

(2) 医薬品の処方方法を把握するためには「お薬手帳」が有効だと考えられます。また、お薬手帳に加えて、多職種間で患者の薬の情報について共有するための取組票（トレーシングレポート等）を活用するといった取組を行っている地域もあります。そういった何らかの取組を行っているかと思いませんか。

1 思う 2 思わない

⇒思わない場合、その理由について記載してください。（自由記載 例、お薬手帳の活用で十分だと考えられるから、）

※その他、服用する薬が多い事に関して御意見、お気づきの点などがあれば、御自由にお書きください。

問4 基ステーションと薬局との連携状況についてお聞かせください。

(1) 薬局と患者情報の共有をえていますか？

1 ある 2 ない

(2) (1)以外で、薬局との連携を実施したことがありますか（※連携の内容は(3)の選択肢を参考にしてください）。

1 ある 2 ない

(3) (2)で「ある」と答えた方にお聞かせします。どのような内容で連携を実施しましたか。

- 1 取組計画
- 2 取組確認
- 3 ジェネリック医薬品の変更
- 4 お薬相談（服用薬の相談）
- 5 ポリファーマシーへの対応
- 6 他の医療機関・介護関係事業所等との医薬品の調製
- 7 随時相談
- 8 セルフメディケーション（一般用医薬品等の活用）の相談
- 9 医療衛生材料、医療機器の供給
- 10 高度管理医療機器（ウルスオキシメーターなど）の販売・貸与
- 11 医療管理（お薬カレンダーの対応など）
- 12 在宅医療の対応（緩和ケア患者、小児在宅、麻薬処方等を含む）
- 13 公衆衛生の相談（施設消毒、手指消毒、換気等）
- 14 その他（例：無菌調剤、点滴用ポンプ貸与など）

(4) 当委員会で、「おくすり相談シート」という薬局との連携ツールを作成しています。おくすり相談シートについて御存じですか。

※詳細シートについてはこちら ⇒ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/osshiki/59/chiikakukou-iyakushin.html>

1 はい 2 いいえ

訪問看護ステーション用

(5) 薬の情報やポリファーマシーに関して、薬局との連携など、多職種連携を運ぶうえで積極的に実施していること、工夫していることはありますか。

- (6) 薬局や薬剤師にはどのようなことを相談したい、実施してほしいと願いますか。
- 1 医薬品情報
 - 2 医薬相談
 - 3 ジェネリック医薬品への変更
 - 4 お薬相談（服用薬の相談）
 - 5 ポリファーマシーへの対応
 - 6 他の医療機関・介護関係事業所等との医薬品の調製
 - 7 随時相談
 - 8 セルフメディケーション（一般用医薬品等の活用）の相談
 - 9 医療衛生材料・医療機器の供給
 - 10 高度管理医療機器（ウルスオキシメーターなど）の販売・貸与
 - 11 医療管理（お薬カレンダーの対応など）
 - 12 在宅医療の対応（緩和ケア患者、小児在宅、麻薬処方等を含む）
 - 13 公衆衛生の相談（施設消毒、手指消毒、換気等）
 - 14 その他（例：無菌調剤、点滴用ポンプ貸与など）

***** 質問は以上です。御協力ありがとうございました。*****

多剤使用に関するアンケート

問1 薬局名についてお聞かせください。

薬局名の所在地	郵便番号	町名	支店名
<input type="checkbox"/> 1	広島県	広島市、安芸高田市、府中市、湯田町、鹿野町、安芸太田町、北広島町	
<input type="checkbox"/> 2	広島県	大竹市、廿日市町	
<input type="checkbox"/> 3	広島県	呉市、江田島町	
<input type="checkbox"/> 4	広島県	広島中央、竹原市、大野上郡町	
<input type="checkbox"/> 5	広島県	三原市、尾道市、世田町	
<input type="checkbox"/> 6	広島県	福山市、府中市、神石高原町	
<input type="checkbox"/> 7	広島県	三次市、庄原市	

問2 薬局名における「薬のまさ」への認識についてお聞かせください。

- (1) 患者様の服用、使用している医薬品について何種類以上を「多い」ととらえていますか。
- 1 1種類
 - 2 2種類
 - 3 3種類
 - 4 4種類
 - 5 5種類
 - 6 6種類
 - 7 7種類
 - 8 8種類
 - 9 9種類
 - 10 それ以上 (具体的な数字を記載してください)

(2) 群飲の業務の中で、薬を服用している患者に、ポリファーマシーなどの何らかの問題が生じていると感じることがありますか。

- 1 ある
 - 2 ない
- ある場合、具体的な何らかの問題が生じていると感じますか。(複数回答可)
- 1 薬物関連の有害事象の発生 (薬作用の相互作用を含む)
 - 2 根拠アトピアランスの低下 (飲み忘れの増加、服薬をやめてしまう、など)
 - 3 その他 (以下に具体的に記載してください。)

問3 薬局における、多くの種類の医薬品を服用することに関する問題への対応についてお聞かせください。

(1) 多くの種類の医薬品を服用している患者において、何らかの問題が生じていると感じた際の対応として、優先順位が高いと思われるものを3つ選んで、その数字を下の枠内に記載してください。(現在、同様の相談を行っていない場合は、今後相談を行うことを想定して選択してください。)

- 1 処方箋を發行した医師 (または歯科医師)
- 2 患者の利用している医療機関の薬剤師
- 3 処方箋を發行した医師以外の医師 (または歯科医師)
- 4 患者の利用している訪問看護ステーション
- 5 患者の利用している居宅介護支援事業所
- 6 患者の利用している居宅介護支援センター
- 7 患者の利用している地域包括支援センター
- 8 広島県薬剤師会薬剤情報センター
- 9 その他

優先順位 1位 優先順位 2位 優先順位 3位

⑨ その他 (該当の場合は具体的に記入してください)

(2) 医薬品の使用状況を把握するためには「お薬手帳」が有効だと考えられます。また、お薬手帳に加えて、多剤服用に関する情報の提供についてお聞かせください。どのような取り組みを行っているか、お聞かせください。

- 1 思いません
- 2 思いません
- 3 思いません
- 4 思いません
- 5 思いません
- 6 思いません
- 7 思いません
- 8 思いません
- 9 思いません
- 10 思いません
- 11 思いません
- 12 思いません
- 13 思いません
- 14 思いません

※その他、服用する薬が多い事に関して御意見、お気づきの点などがあれば、御自由にお書きください。

問4 関係職種 (医師、介護職など) との連携状況についてお聞かせください。

- (1) 関係職種と患者情報の共有をしたことがありますか。
- 1 ある
 - 2 ない
- (2) (1)以外、関係職種との連携を強化したことがありますか (※連携の内容は (3) の選択肢を参考にしてください)。
- 1 ある
 - 2 ない

(3) (2)で「ある」と答えた方にお聞かせください。どのような内容で連携を実施しましたか。

- 1 相談対応
- 2 処方箋の発行
- 3 ジェネリック医薬品への変更
- 4 お薬相談 (服用薬の相談)
- 5 ポリファーマシーへの対応
- 6 他の医療機関・介護関係事業所等との医薬品の調整
- 7 健康相談
- 8 セルフメディケーション (一般用医薬品等の活用) の相談
- 9 医療衛生材料・医療機器の供給
- 10 高度管理医療機器 (ハルスオキメーターなど) の販売・貸付
- 11 服薬管理 (お薬カレンダーの発行など)
- 12 在宅医療の対応 (緩和ケア患者、小児在宅、療養処方等を含む)
- 13 公衆衛生の相談 (施設消毒、手指消毒、換気等)
- 14 その他 (例：無菌調剤、点滴用ポンプ貸付など)

(4) 当委員会では、「おくすり相談シート」という薬局との連携ツールを作成しています。

「おくすり相談シート」について御存じですか。
 1 はい
 2 いいえ

(5) 薬の情報やポリファーマシーに関して、多剤連携を進めようとする取り組みを実施していること、工夫していること、お聞かせください。

- (6) 関係職種との連携にめど、どのようなことを相談してほしい、実施できると思っていますか。
- 1 相談対応
 - 2 処方箋の発行
 - 3 ジェネリック医薬品への変更
 - 4 お薬相談 (服用薬の相談)
 - 5 ポリファーマシーへの対応
 - 6 他の医療機関・介護関係事業所等との医薬品の調整
 - 7 健康相談
 - 8 セルフメディケーション (一般用医薬品等の活用) の相談
 - 9 医療衛生材料・医療機器の供給
 - 10 高度管理医療機器 (ハルスオキメーターなど) の販売・貸付
 - 11 服薬管理 (お薬カレンダーの発行など)
 - 12 在宅医療の対応 (緩和ケア患者、小児在宅、療養処方等を含む)
 - 13 公衆衛生の相談 (施設消毒、手指消毒、換気等)
 - 14 その他 (例：無菌調剤、点滴用ポンプ貸付など)

***** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。*****

多剤使用に関するアンケート

問1 貴機関にお住りますか。

チェック欄	施設名	施設内市町
<input type="checkbox"/> 1	広島	広島市、安芸高田市、府中町、海田町、尾道市、尾道市、坂町、安芸太田町、北広島町
<input type="checkbox"/> 2	広島西	大竹市、安芸高田市、府中町、海田町、尾道市、尾道市、坂町、安芸太田町、北広島町
<input type="checkbox"/> 3	呉	呉市、江田島市
<input type="checkbox"/> 4	広島中央	東広島市、竹原市、大庄上島町
<input type="checkbox"/> 5	尾三	三原市、尾道市、世羅町
<input type="checkbox"/> 6	福山・府中	福山市、府中町、神石高野町
<input type="checkbox"/> 7	福北	三次市、庄原市

問2 貴機関の病床数について、それぞれお答えください。

- 7 病床数 (一つ選択)
- 1 20床未満
 - 2 20床以上100床未満
 - 3 100床以上200床未満
 - 4 200床以上300床未満
 - 5 300床以上500床未満
 - 6 500床以上

イ 病院種別※ (一つ選択)

- 1 一般病院 (一般病床を80%以上有する)
- 2 療養型病院 (療養病床 (医療型+介護型) を80%以上有する)
- 3 精神科病院 (精神病床を80%以上有する)
- 4 上記以外の病院 (ケアミックス)

問3 貴機関における「薬の置き」への取組についてお答えください。

- (1) 薬の取組、使用している医薬品について御座いますか。 (多い) とお答えいただけますか。
- 1 2種類
 - 2 3種類
 - 3 4種類
 - 4 5種類
 - 5 6種類
 - 6 7種類
 - 7 8種類
 - 8 9種類
 - 9 10種類
 - 10 それ以上 (具体的に数字を記載してください。種類以上)

(2) 業務の業務の中で、薬を服用している患者に、ポリファーマシーなどの開からの問題が生じていると感じることはありますか。

- 1 ある
 - 2 ない
- ある場合、具体的にどのような問題が生じていると感じますか。(複数回答可)
- 1 薬剤師の有資格者の発生 (薬剤師の相互利用を含む)
 - 2 医療アセスメントの低下 (感付の低下、開業を促す、など)
 - 3 その他 (以下に具体的に記載してください)

問3 貴機関における、多くの種類の医薬品を服用することに関する問題への対応についてお答えください。

- (1) 貴機関において入居者の処方薬※を実施していますか。
- (※処方薬 ここでは、入居者が複数の医療機関から薬を処方されている場合に重複等を確認したうえで減薬等を行うこととします)
- 1 実施している
 - 2 実施していない

→実施している場合、整理後の薬剤情報は、患者退院時にどのように発信していますか。(複数回答可)

- 1 患者のお薬手帳に記載する
- 2 お薬手帳以外の媒体に情報を入力し、関係機関と共有できるようにしている
- 3 電子媒体に情報を入力し、関係機関と共有できるようにしている
- 4 整理後の情報について報告等は行っていない
- 5 その他 (以下に具体的に記載してください)

(2) 多くの種類の医薬品を服用している患者において、何らかの問題が生じていると感じる原因を、真原因に所属している原因の種類の相違点として、優先順位が高い順に3つ選んで、その数字を下の枠内に記載してください。

- (現在、同様の相違点を行っていない場合は、今後相違点を行うことを想定して選択してください。)
- 1 処方箋を発行した医師 (または歯科医師)
 - 2 他の医療機関の薬剤師
 - 3 処方箋を発行した医師以外の医師 (または歯科医師)
 - 4 患者の服用している薬
 - 5 患者の服用している期間(重複処方)
 - 6 患者の服用している処方(重複処方)
 - 7 患者の服用している処方(重複処方)
 - 8 広島県薬剤師会薬事情報センター
 - 9 その他

優先順位 1位— 優先順位2位— 優先順位3位—

19 その他 (選んだ場合は具体的に記載してください。)

(3) 医薬品の使用状況把握するためには「お薬手帳」が有効であると考えられます。また、お薬手帳に加えて、多種類で患者の薬の情報を提供するための連絡簿 (トレーシングレポート等) を活用するといった取組も行ってはいる地域もあります。そういった方向からの取組を行ってみたいと思いますか。

- 1 思う
 - 2 思わない
- 思わない場合、その理由について記載してください。自由記載 例、お薬手帳の活用で十分だと考えられるから)

問4 貴機関と薬品との連携状況についてお答えください。

- (1) 薬局と患者情報の共有をしたことがありますか。
- 1 ある
 - 2 ない

(2) (1) 以外で、薬局との連携を実施したことがありますか。(※連携の内容は(3)の選択肢を参考にしてください)。

- 1 ある
 - 2 ない
- (3) (2) で「ある」と答えた方にお答えします。どのような内容で連携を実施しましたか。
- 1 処方箋確認
 - 2 処方確認
 - 3 ジェネリック医薬品への変更
 - 4 お薬相談 (服用薬の相談)
 - 5 ポリファーマシーへの対応
 - 6 他の医療機関・介護関係事業所等との医薬品の調整
 - 7 情報相談
 - 8 セルフメディケーション (一般用医薬品等の活用) の相談
 - 9 医療衛生材料・医療機器の供給
 - 10 高度管理医療機器 (ウルスオキメーターなど) の販売・貸付
 - 11 服薬管理 (お薬カレンダーの対応など)
 - 12 在宅医療の対応 (緩和ケア患者、小児在宅、産業処方等を含む)
 - 13 公衆衛生の相談 (施設消毒、手指消毒、換気等)
 - 14 その他 (例、無菌調剤、点滴用ポンプ貸付など)

(4) 当委員会では、「早くすり相談シート」という薬局との連携ツールを作成しています。

- ※詳細シートにつきましてはこちら ⇒ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/99/ohitaihoubyou-tyakuhaku.html>
- 1 はい
 - 2 いいえ
- (5) 薬の情報やポリファーマシーに関して、薬局との連携など、多剤連携を進めようとして積極的に実施していることと、工夫していることはありますか。

(6) 薬局と連携にはどのようなことを相談したい、実施してほしいと思えますか。

- 1 処方確認
- 2 処方確認
- 3 ジェネリック医薬品への変更
- 4 お薬相談 (服用薬の相談)
- 5 ポリファーマシーへの対応
- 6 他の医療機関・介護関係事業所等との医薬品の調整
- 7 情報相談
- 8 セルフメディケーション (一般用医薬品等の活用) の相談
- 9 医療衛生材料・医療機器の供給
- 10 高度管理医療機器 (ウルスオキメーターなど) の販売・貸付
- 11 服薬管理 (お薬カレンダーの対応など)
- 12 在宅医療の対応 (緩和ケア患者、小児在宅、産業処方等を含む)
- 13 公衆衛生の相談 (施設消毒、手指消毒、換気等)
- 14 その他 (例、無菌調剤、点滴用ポンプ貸付など)

***** 質問は以上です。御協力ありがとうございました。*****

お薬に関するアンケート

問1. あなたの情報について

(1) アンケートの取組を受けた薬局の所在地はどちらの区域ですか。

チェック欄	圏域名	圏域内市町
<input type="checkbox"/> 1	広島	広島市、安芸高田市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田町、北広島町
<input type="checkbox"/> 2	広島西	大竹市、廿日市市
<input type="checkbox"/> 3	呉	呉市、江田島市
<input type="checkbox"/> 4	広島中央	東広島市、竹原市、大府上島町
<input type="checkbox"/> 5	尾三	三原市、尾道市、世羅町
<input type="checkbox"/> 6	福山・府中	福山市、府中市、神石高原町
<input type="checkbox"/> 7	備北	三次市、庄原市

(2) あなたの性別及び年齢について当てはまるものを選択してください。

- ア 性別
- 1 男性
 - 2 女性
- イ 年齢
- 1 10代
 - 2 20代
 - 3 30代
 - 4 40代
 - 5 50代
 - 6 60代
 - 7 70代
 - 8 80代以上

(3) あなたは「お薬手帳」をもっていますか。

- 1 もっている
- 2 もっていない

(4) あなたは「かかりつけ薬剤師・薬局※」をもっていますか。

- 1 もっている
- 2 もっていない

※かかりつけ薬剤師・薬局とは

- ・医療機関からの薬や市販の薬について、一元的・継続的に管理し、薬の重傷や相互作用を防ぎます。
- ・薬の使用記録（薬歴）を作り、きめ細かい薬物管理・服薬指導を行います。
- ・薬の処方や副作用などについて、継続して確認します。
- ・飲み残しや飲み忘れがないよう薬物治療をサポートし、残薬を減らします。
- ・在宅療養の方には、ご自宅等にお伺いして、薬剤管理・服薬指導を行います。
- ・いざというとき、困ったときには、休日・夜間でもご相談をお受けします。

(4) あなたの現在の受診状況や介護サービス受給状況について、該当するものを選んでください。

- ア 受診状況について（複数選択可）
- 1 内科
 - 2 小児科
 - 3 精神科・神経科
 - 4 腫瘍外科・腫瘍科
 - 5 外科・整形外科
 - 6 泌尿器科
 - 7 皮膚科
 - 8 産科・婦人科
 - 9 眼科
 - 10 耳鼻咽喉科
 - 11 歯科
 - 12 その他（ ）

問2. お薬の種類等に関する認識について

- (1) 渡されたお薬について何種類から「多い」と感じますか。
- 1 2種類
 - 2 3種類
 - 3 4種類
 - 4 5種類
 - 5 6種類
 - 6 7種類
 - 7 8種類
 - 8 9種類
 - 9 10種類
 - 10 それ以上（種類以上）
 - 11 何種類でも「多い」と感じない
- 渡された薬の種類が「多い」場合、何か困る事があれば、それはどのようなことですか。（複数回答可）
- 1 気づいたら薬の余りが多く残っている
 - 2 その薬がどのような飲み方からなくなる
 - 3 薬の種類が多くなって困る事はない
 - 4 その他（以下に具体的に記載してください。）

- (2) 薬の種類が多いことで困った際には、誰に相談しますか。（複数回答可）
- 1 家族
 - 2 医師
 - 3 療科医師
 - 4 薬局薬剤師
 - 5 調剤薬剤師
 - 6 看護師
 - 7 介護支援専門員（ケアマネジャー）
 - 8 その他（ ）

※その他、服用する薬が多い事に関して御意見、お気づきの点などがあれば、御自由にお書きください。

***** 質問は以上です。御協力ありがとうございました。*****

広島県地域保健対策協議会 医薬品の適正使用検討特別委員会

委員長 松尾 裕彰 広島大学病院薬剤部
委員 石井 哲朗 呉市医師会
岡 和子 広島市健康福祉局保健部環境衛生課
岡田 史恵 広島県健康福祉局薬務課
小澤孝一郎 広島大学大学院医系科学研究科治療薬効学
落久保裕之 広島県医師会
角本 伸志 広島県介護支援専門員協会
杉本 洋輔 広島市医師会
谷川 正之 広島県薬剤師会
天間 裕文 広島県歯科医師会
豊見 敦 広島県薬剤師会
橋本 成史 安佐医師会
浜崎 忍 広島県看護協会
松井 富子 広島県訪問介護ステーション協議会